

早稻田大学大学院

GRADUATE SCHOOL OF CREATIVE SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

創造理工学研究科要項

2008



2008年度 創造理工学研究科要項

早稻田大学大学院
創造理工学研究科

早稲田大学校歌

相馬 東儀 御風 鉄笛 作詞 作曲

Moderato

二.

東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く大島國の

大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らず
やがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

かがやくわれらが行手を見よや
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

三.

あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人は変れど

仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて空もとどろに
われらが母校の名をばたたへん
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

一.

都の西北早稲田の森に
聳ゆる壘はわれらが母校

われらが日ごろの抱負を知るや
現世を忘れぬ久遠の理想

かがやくわれらが行手を見よや
進取の精神学の独立

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的な事項を収録したものであり、修了時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

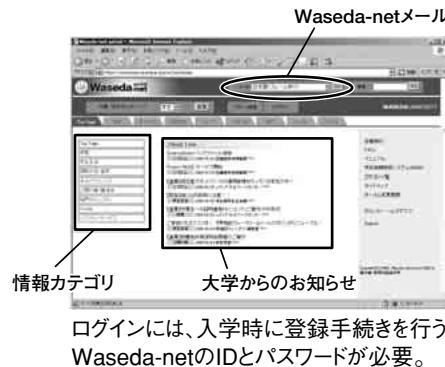
アクセス方法は次ページの通りなので、常時確認すること。

Waseda-netポータル／Waseda-netメール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この「ポータル（玄関）」からログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報を得ることができる（授業の科目登録、試験、レポートなど履修に関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。

Waseda-netメールはWebブラウザがあれば、どこでも利用できるWebメールサービス。このアドレスは卒業してからも使用できる。

<https://www.wnp.waseda.jp>



授業支援ポータル 「Course N@vi」

「Course N@vi」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツール。Waseda-netポータルにログインし、左メニュー「授業」より、「Course N@vi」を選択して利用する。

理工系学生ページ

「理工系学生ページ」は、理工学術院が授業支援などのために独自に作成しているページ。Waseda-netポータルにログインし、左メニューから「理工系学生ページ」を選択して参照する。このページでは、科目登録結果、休講情報などの個人向けの情報を閲覧することができる。

最低でも週に1回はチェックすること。



理工系学生ページ

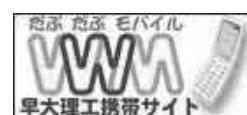
理工学術院ホームページ

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

携帯電話対応Webサイト

携帯電話対応Webサイト「WWモバイル」を開設している。理工学術院からの連絡や休講情報、講演会情報、端末室の利用状況などを携帯電話を利用して時間や場所を問わず参照することが可能。休講情報を参照するためにはアクセス・コードが必要。アクセス・コードは「理工系学生ページ」で確認すること。



携帯電話対応Webサイト「WWモバイル」のQRコード

※要項の内容は変更になることがあるので、これらのページを常時確認すること。

CONTENTS

I 特徴	1
II 沿革と概要	3
III 研究科要項	7
1 履修方法	7
2 学位	8
3 先取り履修制度	8
4 後取り履修制度	8
5 ユニット制度	9
6 「専修コース」制度	11
7 コア科目・推奨科目	12
8 隔年講義等	18
9 特定課題演習・実験	18
10 インターンシップ	18
11 学費の納入と抹籍	19
12 共通科目の学科目配当表	22
13 各専攻の学科目配当表	23
建築学専攻	23
総合機械工学専攻	33
経営システム工学専攻	40
建設工学専攻	47
地球・環境資源理工学専攻	53
14 教員免許状の取得方法	60
15 履修科目の登録	61
16 授業時間帯	61
17 レポート・論文作成にあたっての注意事項	61
18 成績の表示	62
19 科目等履修生	62

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

I	特　徴
II	沿革と概要
III	研究科要項
IV	学生生活
V	付　録

IV	学生生活	65
1	学生の手帖 (Compass)	65
2	理工学術院および創造理工学研究科ホームページ	65
3	学籍番号	65
4	学生相談	65
5	就職	68
6	学生証	69
7	各種証明書類の交付	69
8	各種願・届の提出	70
9	奨学金制度	72
10	掲示	72
11	教室・共通ゼミ室の使用	75
12	学生の課外活動	75
13	安全管理	76
14	海外留学等	77
15	理工リエゾンオフィス	78
16	禁煙キャンパス	79
17	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	79
18	理工学図書館・学生読書室	79
19	コンピュータ・ルーム	81
20	総合健康教育センター大久保分室	82
21	交通機関のストライキと授業	84
22	天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて	84

V	付　録	87
1	早稲田大学大学院学則（抜粋）	87
2	早稲田大学学位規則（抜粋）	95
3	大学院外国人特別研修生に関する規程	98
4	大学院科目等履修生に関する規程	100
5	大学院研究生に関する規程	101
6	創造理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的	102
7	早割りURL・電話番号	103
8	キャンパスマップ	104
9	時間割作成用紙	106

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

I

創造理工学研究科の特徴

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

創造理工学研究科「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」

創造理工学研究科は、多様な人間の価値観に基づく豊かさを創造するために、人間活動を世界的な視点で支援することの出来る人材の養成を目的としている。社会が直面する様々な課題を断片的ではなく、総合的な視野を持って解決策を提案できる人材の育成を目的とする。そのために、空間・装置・コミュニティなどの創造及び循環システム技術に関する実践的教育と先導的研究を展開していくことが、当研究科が掲げる教育研究上の理念である。

「創造」という言葉は単に物事を細かく分割してその中の法則を考えるだけではなく、社会が直面する様々な課題に対して総合的な解決案を提案するという意味を含んでいる。大きなシステムを分割して個々の要素だけの解決策を考えるだけでは不十分である。これからの科学技術には創造的な側面が強く求められている。

早稲田大学大学院理工学研究科は、ほぼ1世紀にわたって科学技術に関連する各種分野に有能な多くの人材を送り出し、大いなる社会的貢献を果たしてきた。その原動力となったのは、基礎学間に裏付けられた各種技術を融合・総合して実社会に適用し、そこでの問題点を抽出・解決し、新たなる技術革新をもたらしてきた創造性に富んだ実践力にほかならない。創造理工学研究科は、その機能を結集した先鋭的な組織であり、人間・社会への理工学的貢献を具現化することを主目的とした建築学専攻、総合機械工学専攻、経営システム工学専攻、建設工学専攻、地球・環境資源理工学専攻の5専攻よりなる。

現代社会においては、シーズとなる各種先端技術を如何なる理念のもとに実社会に適用するかが重要である。また、倫理感を持った実践的かつ先導的な能力を身に付けた技術者となる必要がある。一方、海外との研究交流も活発に行われており、国際性の高い人材教育が行われている。

学生諸君は、是非これらの理念を良く理解をして、自身の能力の研鑽に努めてほしい。大学院生活ではとかく自分の専門領域だけに注目しがちであるが、広く周りを見渡せる大局觀を持つことが大切である。また、研究室生活などで生涯の友人を得ることも多い。早稲田大学で学ぶことは単に授業の履修のみを意味しているわけではない。学生諸君のステップアップを期待している。

I 特 徴

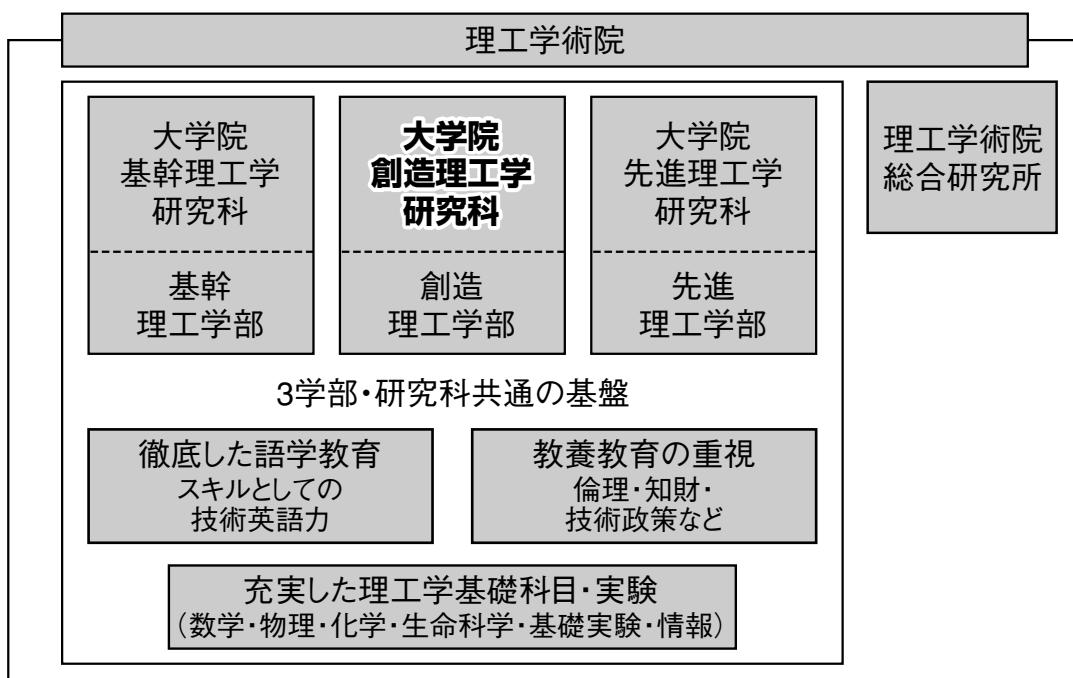
II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

〈理工学術院 組織構成〉



I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

II

創造理工学研究科の沿革と概要

沿革

1920年2月(大正9年) 大学令による大学となる

大学院新設

1951年4月(昭和26年) 工学研究科(機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の5専攻)の修士課程を設置

堤 秀夫工学研究科委員長就任

11月 堤 秀夫工学研究科委員長再任

1953年3月(昭和28年) 工学研究科(機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の5専攻)の博士課程を設置

1954年3月(昭和29年) 応用物理学専攻の修士課程を設置

9月 伊原貞敏工学研究科委員長就任

1956年9月(昭和31年) 青木楠男 //

1957年10月(昭和32年) 早稲田大学創立75周年

1958年9月(昭和33年) 山本研一工学研究科委員長就任

1960年9月(昭和35年) 宮部 宏 //

1961年3月(昭和36年) 工学研究科を理工学研究科と改称

9月 数学専攻の修士課程, 博士課程および応用物理学専攻の博士課程を設置

1962年9月(昭和37年) 難波正人理工学研究科委員長就任

10月 早稲田大学創立80周年

1964年9月(昭和39年) 難波正人理工学研究科委員長再任

1965年4月(昭和40年) 機械工学専攻に機械工学専門分野・工業経営学専門分野を, 電気工学専攻に電気工学専門分野・通信工学専門分野を, 建設工学専攻に建築学専門分野・土木工学専門分野を, 鉱山及金属工学専攻に資源工学専門分野・金属工学専門分野を設置

1966年9月(昭和41年) 岩片秀雄理工学研究科委員長就任

1968年9月(昭和43年) 葉山房夫 //

1970年9月(昭和45年) // 再任

1972年4月(昭和47年) 鉱山及金属工学専攻を資源及金属工学専攻と改称

9月 並木美喜雄理工学研究科委員長就任

1973年4月(昭和48年) 応用物理学専攻を物理学及応用物理学専攻と改称

1974年9月(昭和49年) 並木美喜雄理工学研究科委員長再任

1976年4月(昭和51年) 学則改正

電気工学専攻のうちの通信工学専門分野を電子通信学専門分野と改称

9月 斎藤 孟理工学研究科委員長就任

1978年9月(昭和53年) // 再任

1980年9月(昭和55年) 加藤一郎理工学研究科委員長就任

1981年4月(昭和56年) 研究生制度新設

委託学生を委託研修生に特殊学生を一般研修生に改称

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

I 特 徴	1982年 9月(昭和57年)	加藤一郎理工学研究科委員長再任
II 沿革と概要	10月	早稲田大学創立100周年
III 研究科要項	1983年 4月(昭和58年)	応用化学専攻に応用化学専門分野・化学専門分野を設置
IV 学生生活	7月	特別選考制度による学生募集開始(昭和59年度生より)
V 付 錄	1984年 9月(昭和59年)	堀井健一郎理工学研究科委員長就任
	1986年 9月(昭和61年)	// 再任
	1988年 4月(昭和63年)	資源及金属工学専攻を資源及材料工学専攻と改称 ならびに同専攻のうちの金属工学専門分野を材料工学専門分野と改称
	9月	大頭 仁理工学研究科委員長就任
	1990年 4月(平成2年)	応用化学専攻のうちの化学専門分野を応用化学専攻から分離、化学専攻として設置
	9月	大頭 仁理工学研究科委員長再任
	1992年 9月(平成4年)	大井喜久夫理工学研究科委員長就任
	1994年 9月(平成6年)	// 再任
	1995年 4月(平成7年)	電気工学専攻のうちの電子通信学専門分野を電気工学から分離、電子・情報通信学専攻として設置 情報科学専攻の修士課程を設置 数学専攻を数理科学専攻と改称
	1996年 4月(平成8年)	機械工学専攻のうちの工業経営学専門分野を経営システム工学専門分野と改称 委託研修生を委託科目等履修生に一般研修生を一般科目等履修生に改称
	9月	尾崎 肇理工学研究科委員長就任
	1997年 4月(平成9年)	情報科学専攻の博士後期課程を設置
	1998年 9月(平成10年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長就任
	2000年 9月(平成12年)	逢坂哲彌理工学研究科委員長再任
	2001年 4月(平成13年)	生命理工学専攻の修士課程、博士後期課程を設置 資源及材料工学専攻を環境資源及材料理工学専攻と改称 資源及材料工学専攻の資源工学専門分野を地球・環境資源理工学専門分野と改称 資源及材料工学専攻の材料工学専門分野を物質材料理工学専門分野と改称
	2001年 6月(平成13年)	文部科学省科学研究費 中核的研究拠点(COE)形成基礎研究費「ナノ構造配列を基盤とする分子ナノ工学の構築とマイクロシステムへの展開」(研究リーダー 大泊巖)採択
	2002年 9月(平成14年)	大場一郎理工学研究科委員長就任
	10月	21世紀COEプログラム「プロダクティブICTアカデミアプログラム」(研究リーダー 村岡洋一)および「実践的ナノ化学教育研究拠点」(研究リーダー 竜田邦明)採択
	2003年 4月(平成15年)	機械工学専攻のうちの経営システム工学専門分野を機械工学専攻から分離、経営システム工学専攻として設置 建設工学専攻のうちの建築学専門分野を建設工学専攻から分離、建築学専攻と

	して設置
	電気工学専攻、電子・情報通信学専攻および情報科学専攻を電気・情報生命専攻、情報・ネットワーク専攻に再編
	ナノ理工学専攻の修士課程、博士後期課程を設置
7月	21世紀COEプログラム「超高齢社会における人とロボット技術の共生」(研究拠点リーダー 藤江正克) および「多元要素からなる自己組織系の物理」(研究拠点リーダー 石渡信一) 採択
2004年5月(平成16年)	戦略的研究拠点育成プログラム(通称:スーパーCOE)「先端科学と健康医療の融合拠点の形成」(代表者:白井克彦総長)採択
9月	竜田邦明理工学研究科長就任 理工学院設置
2005年4月(平成17年)	環境・エネルギー専攻の修士課程を設置
12月	魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合型PBL -自立創造的研究者養成」(研究拠点リーダー 梅津光生)採択
2006年9月(平成18年)	橋本周司理工学院長就任 山川宏創造理工学研究科長就任 理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し、理工学総合研究センターを設置
2007年4月(平成19年)	理工学研究科を基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科に再編 創造理工学研究科には建築学専攻、総合機械工学専攻、経営システム工学専攻、建設工学専攻、地球・環境資源理工学専攻の5専攻を設置
6月	グローバルCOEプログラム「『実践的化学知』教育研究拠点」(拠点リーダー 黒田一幸) および「アンビエントSoC教育研究の国際拠点」(拠点リーダー 後藤敏)採択
9月	大学院教育改革支援プログラム「超専攻型融合テーマスタディクラスター教育」(拠点リーダー 梅津光生)採択
10月	早稲田大学創立125周年
2008年4月(平成20年)	63号館完成(予定) 50号館完成(予定)

概 要

大学院創造理工学研究科は、高度にして専門的な理工学の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。

課 程

大学院博士課程5年を前期2年と後期3年に区分し、前期2年の課程はこれを修士課程として取り扱う。修士課程を修了するには、大学院に2年以上在学し、本研究科の定めるところの所要の授業科目について

て30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。修士課程を修了したものには修士（建築学）、修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に3年以上在学し、本研究科の定めるところの研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。博士後期課程を修了した者には、博士（建築学）、博士（工学）、または博士（理学）の学位が授与される。

専 攻

創造理工学研究科には次の専攻が置かれている。

- 1) 建築学専攻
- 2) 総合機械工学専攻
- 3) 経営システム工学専攻
- 4) 建設工学専攻
- 5) 地球・環境資源理工学専攻

III

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

創造理工学研究科要項

1 履修方法	1. 履修方法
2 学位	2. 学位
3 先取り履修制度	3. 先取り履修
4 後取り履修制度	4. 後取り履修
5 ユニット制度	5. ユニット制度
6 「専修コース」制度	6. 専修コース制度
7 コア科目・推奨科目	7. コア科目 推奨科目
8 隔年講義等	8. 隔年講義等
9 特定課題演習・実験	9. 演習・実験
10 インターンシップ	10. インターン シップ
11 学費の納入と抹籍	11. 学費
12 共通科目の学科目配当表	12. 共通科目
13 各専攻の学科目配当表	13. 専攻別案内
建築学専攻	建築
総合機械工学専攻	総合機械
経営システム工学専攻	経営
建設工学専攻	建設
地球・環境資源理工学専攻	地球資源
14 教員免許状の取得方法	14. 教職免許
15 履修科目の登録	15. 科目登録
16 授業時間帯	16. 授業時間帯
17 レポート・論文作成にあたっての注意事項	17. レポート・ 論文作成
18 成績の表示	18. 成績の表示
19 科目等履修生	19. 科目等履修生

1 履修方法

【修士課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 修士論文に着手するためには、各専攻の定める第1年度の必要単位を取得し、第1年度の終わりに修士論文の研究計画書を提出しなければならない。
- (3) 修士の学位を取得するためには、2年以上在学し、30単位以上を取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について研究科運営委員会が認めた場合に限り、1年以上在学すれば足りるものとする。
- (4) 科目履修においては、事前に指導教員に確認し、許可を得た科目のみを申請すること。
- なお、実際の申請手順等については、理工学統合事務所のホームページ上の案内に従うこと。
- (5) 科目履修条件として、科目名にI, IIを付してある学科目については、その順序に従って履修しなければならない。また、科目名にA, B, C, Dを付してある学科目については、履修の順序を特に定めない。
- (6) 演習科目の取得単位数が、各専攻の定めた制限単位を超える場合には、その超えた分については修了必要単位数に算入しない。
- (7) 講義科目的選択は、原則として自専攻内に置かれた科目の中からとするが、指導教員が認めた場合に限り、他専攻・他研究科・他学術院からも選択できる。

創造理工学研究科内専攻・理工学術院内他研究科・他学術院聴講の扱い

(修了必要単位数に算入できる上限単位数)

専攻名	他専攻聴講	理工学術院内他研究科聴講	他学術院聴講
建築学専攻	6単位	6単位	6単位
総合機械工学専攻	10単位	10単位	10単位
経営システム工学専攻	8単位（※）	8単位（※）	8単位（※）
建設工学専攻	制限なし		4単位
地球・環境資源工学専攻	制限なし		0単位

※経営システム工学専攻は3項目併せて12単位までしか算入できない。

- (8) ユニットに所属を希望する者は、指導教員と相談の上、自己の選択科目を決定すること。
- (9) 自己の所属する専攻の各部門において、コア科目および推奨科目が設置されている場合は、これらの講義科目を中心に選択すること。（詳細は「III-6 コア科目・推奨科目」を参照）
- (10) 特別な事情がある場合には、関連教員の許可を得て、第2年度の始めに専門分野内で他の研究指導に移ることができる。
- (11) 修士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。
- (12) 修士課程においては、4年間を超えて在学することはできない。

【博士後期課程】

- (1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。
- (2) 博士後期課程では必要取得単位数はないが、理工学術院内に設置された講義科目はその担当教員の了解のもとに聴講することができる。他研究科の講義科目についてもこれに準ずる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目
推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン
シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・
論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

- (3) 博士論文の作成、その他研究一般については、指導教員の指示に従う。
- (4) 博士後期課程においては、6年間を超えて在学することはできない。
- (5) 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程に3年以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り博士論文を提出し最終試験を受けることができる。
- (6) 課程の修了および学位の授与については、後掲大学院学則第13条から第16条を参照のこと。

2 学位

【修士課程】

専攻名	学位（専攻分野）
建築学	修士（建築学）または修士（工学）
総合機械工学	
経営システム工学	修士（工学）
建設工学	
地球・環境資源理工学	修士（理学）または修士（工学）

【博士後期課程】

専攻名	学位（専攻分野）
建築学	博士（建築学）または博士（工学）
総合機械工学	
経営システム工学	博士（工学）
建設工学	
地球・環境資源理工学	博士（理学）または博士（工学）

3 先取り履修制度（学部4年次に履修した大学院授業科目の単位認定）

教育研究上、本研究科が有益と認めるときは、理工学術院内学部および教育学部理学科の4年次（前年度）に履修した大学院授業科目を、下表の各専攻が定める範囲内において大学院創造理工学研究科既修得単位として認定するものとする。

専攻名	先取り履修の認定上限単位数
建築学	10単位
総合機械工学	10単位
経営システム工学	4単位※
建設工学	0単位
地球・環境資源理工学	10単位

※の専攻は創造理工学部設置の合併科目（Ⅲ-11-（Ⅱ）授業科目参照）の先取り履修は認めない。

4 後取り履修制度

指導教員が教育研究上有益と特に認めるときには、各専攻が定める範囲内において、理工学術院内学部、教育学部理学科の授業科目を履修し、その取得単位を修了に必要な単位（30単位）として認定することができる。

ただし、学部在籍時に取得した科目を履修申請することはできない。
また、教職専修免許および各種資格に必要な単位としては認定しない。

専攻名	後取り履修の登録 上限単位数
建築学	6単位※
総合機械工学	0単位
経営システム工学	4単位
建設工学	0単位
地球・環境資源理工学	6単位

※建築学専攻については、オープン教育センターが設置する副専攻カリキュラムのテーマスタディ「都市・地域研究」の構成科目を対象科目として位置づけている。

5 ユニット制度

大学院創造理工学研究科では建築学専攻と建設工学専攻においてユニット制度を実施する。

ユニット制度とは必要に応じて、研究部門あるいは専門分野あるいは専攻を越えて組織される大学院修士課程のカリキュラムを組む組織である。

ユニットに所属する学生は、ユニットを構成する教員が組んだカリキュラムに依って、部門カリキュラムでは得られない、自己の研究と有機的に関連する教育を受けることが可能となる。また、ユニットにはコア科目、推奨科目を設定する。指導教員と相談の上、コア科目、推奨科目を中心に履修すること。

設置されるユニットについては、以下を参照のこと。

ユニット名：都市計画

教員構成

氏名	専攻	氏名	専攻
佐藤 滋	建築学	浅野 光行	建設工学
後藤 春彦	建築学	中川 義英	建設工学
有賀 隆	建築学	佐々木 葉	建設工学

ユニットの概要

21世紀、都市をとりまく環境は大きく変化しようとしている。これまでの都市計画の理論、技術、方法は、より広範かつ総合的に取り込むことが必要とされるばかりでなく、より学際的なアプローチを必要としている。本ユニットでは、現在、建築学専攻、建設工学専攻において各々教育・研究が行われている都市計画部門を中心に、都市づくりに関する多彩な領域を総合的に学ぶ。

履修方法

- 指導教員の担当する全コア科目を含み、8単位以上履修すること。
- 科目的履修については、あらかじめ指導教員と相談のうえ、決定すること。

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目
推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターンシップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
- 建築
- 総合機械
- 経営
- 建設
- 地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推奨科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターンシップ

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帯

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.科目等履修

コア科目

科 目 名	担 当 者
都市計画特論A	中川 義英
都市構造特論	中川 義英
居住地設計・計画特論	有賀 隆
都市設計・計画特論	佐藤 滋
景観・地域デザイン特論	後藤 春彦
交通計画特論	浅野 光行
都市基盤施設特論	浅野 光行
景観・デザイン特論A	佐々木 葉
景観・デザイン特論B	佐々木 葉

推奨科目

科 目 名	担 当 者
河川工学特論B	関根 正人
都市防災計画特論	吉川 仁
プロジェクト開発特論	平本 一雄

6 「専修コース」制度

大学院創造理工学研究科では、研究部門、専門分野あるいは専攻を超えて幅広い知識・能力を身に付けるために、専修コースを設置している。本コースで指定された単位認定科目のうち10単位以上を習得することにより、担当教員の審査を経て当該コース修了の認定がなされる。なお、本コースの履修にあたっては、あらかじめ指導教員と相談のうえ、決定すること。

マクロ材料コース

コースの概要

現代の文明社会において、人類の幸福・安心・安全の観点から工業材料の果たしてきた役割は多大なものである。21世紀社会においては、さらに地球環境保護を志向する材料が要求され、エネルギー関連分野における効率的な材料開発、宇宙・海洋および輸送機器分野あるいは大型建設構造物分野では環境耐久性や材料信頼性の確保が最重要課題となっている。本コースでは、社会基盤産業を支える材料学を専攻横断的な観点から修得し、近未来に人類が直面する材料学的諸問題にも対処できる能力を育成する。

単位認定科目名（担当教員および設置専攻）

素材工学特論（不破、環境・資源）
素材プロセス工学特論（不破、環境・資源）
輸送機器・エネルギー材料特論（吉田、総合機械）
材料強度・破壊学特論（堀部、総合機械）
新構造材料（堀部、他、総合機械）
鉄鋼材料学（寄附講座、総合機械）
材料デザイン特論（西原、総合機械）
応用鉱物学特論（山崎、環境・資源）
素材物質科学特論（山崎、環境・資源）
建築材料特論（輿石、建築）

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 研究科要項
- IV 学生生活
- V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推薦科目
- 8. 隅年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート・
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目選択生

7 コア科目・推奨科目

所属する専攻の部門にコア科目、推奨科目が設置されている場合は、それぞれの履修方法に従って科目を履修すること。

建築学専攻

建築工学分野 建築生産マネジメント研究、建築構法研究および建築材料研究

コア科目

次のコア科目から 8 単位以上履修すること

建築生産マネジメント特論

建築構法計画特論

建築材料特論

建築施工特論

推奨科目

建築生産特論

建築生産システム特論

総合機械工学専攻

コア科目・推奨科目とも設置しない。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 重複コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隅年講義等

9. 演習・実験

10. インターンシップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 科目等履修

経営システム工学専攻

経営デザイン部門、経営数理部門（共通）

コア科目	推奨科目
次のコア科目から 6 単位以上履修すること	次の推奨科目から 8 単位以上履修すること。 ただし、コア科目として履修した講義科目は推奨科目に含めることはできない。
ソフトウェアマネジメント	ソフトウェアマネジメント
オフィス情報システム特論	オフィス情報システム特論
生産システム工学特論	生産システム工学特論
プロフィットデザイン特論	プロフィットデザイン特論
生産管理学特論	生産管理学特論
生産管理システム解析	生産管理システム解析
人間工学特論	人間工学特論
製品・設備ライフサイクル工学特論	製品・設備ライフサイクル工学特論
品質マネジメント特論	品質マネジメント特論
施設・ロジスティクス設計特論	施設・ロジスティクス設計特論
応用確率過程特論	応用確率過程特論
システム理論特論	システム理論特論
情報数理応用特論	情報数理応用特論
知識情報処理特論	数理計画特論
数理計画特論	組合せ最適化特論
組合せ最適化特論	設計・生産プロセス評価
設計・生産プロセス評価	実験計画法特論
実験計画法特論	ワークデザイン
	企業経営論特論
	応用統計学特論
	知識情報処理特論
	マーケティングサイエンス
	研究・技術管理特論
	意思決定論
	効用理論
	行動システム論
	経営システム工学特別講義
	金融工学
	要求工学
	情報セキュリティマネジメント
	ネットワーク技術特論

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目選択制

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推薦科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターンシップ

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帯

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.科目等履修

建設工学専攻

社会基盤部門

コア科目

地中構造特論A

地中構造特論B

コンクリート工学特論A

コンクリート工学特論B

構造設計特論A

構造設計特論B

構造力学特論A

構造力学特論B

環境・防災部門

コア科目

河川工学特論A

河川工学特論B

水質工学特論A

水質工学特論B

水理学特論A

水理学特論B

土質基礎工学特論A

土質基礎工学特論B

土質力学特論A

土質力学特論B

計画マネジメント部門

コア科目

推薦科目

指導教員の担当する全コア科目を含み、8単位以上履修すること

都市計画特論A

河川工学特論B

都市構造特論

都市防災計画特論

交通計画特論

プロジェクト開発特論

都市基盤施設特論

居住地設計・計画特論

景観・デザイン特論A

都市設計・計画特論

景観・デザイン特論B

景観・地域デザイン特論

地球・環境資源理工学専攻

資源科学部門

コア科目

次のコア科目から 3 科目以上履修すること。

鉱床地質学特論

非金属鉱物学特論

素材物質科学特論

応用鉱物学特論

鉱物物理化学特論

粘土鉱物学特論

資源地球化学特論

推奨科目

資源地質学

地球環境の変遷と資源

ジオマテリアル・サイエンス

岩石熱力学特論

地球化学 * 教育学部との合併科目(未履修者に限る)

構造岩石学

断層の解剖

応用鉱物化学特論 * 先進理工学研究科応用化学専攻

地殻情報工学部門

コア科目

次のコア科目から 3 科目以上履修すること。

資源深査工学

地図環境工学

防災深査工学

地震深査工学

推奨科目

地震学特論

資源地質学

数値岩盤工学特論

地質統計学

地殻環境流体工学

開発環境工学部門

コア科目

次のコア科目はすべて履修すること。

数値石油生産工学特論

油層工学特論

地質統計学

天然ガス工学

推奨科目

数値岩盤工学特論

地殻環境流体工学

地図環境工学

資源探査工学

地震探査工学

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

資源循環工学部門

コア科目

次のコア科目はすべて履修すること。

資源分離工学特論

資源リサイクリング*

*合併科目のため、学部で未履修者に限る。

推奨科目

高度粉碎技術特論

分離工学物理化学特論

環境安全工学

水質化学特論

成分分離工学特論

輸送現象特論

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 両修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隅年講義等

9. 演習・実験

10. インターンシップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

素材プロセス工学部門

コア科目

次のコア科目はすべて履修すること。

分離工学物理化学特論

素材工学特論

素材プロセス工学特論

推奨科目

資源リサイクリング

資源分離工学特論

素材物質科学特論

応用鉱物学特論

鉱床地質学特論

資源地球化学特論

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 科目等履修

環境保全工学部門

コア科目

次のコア科目はすべて履修すること。

粉塵工学

環境安全工学

生態環境学

水質化学特論

推奨科目

環境学特論A

環境学特論B

環境学特論C

画像情報処理特論

応用鉱物学特論

資源リサイクリング

分離工学物理化学特論

資源分離工学特論

環境微生物学

地質学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目はすべて履修すること。	
古生物学特論	地圏環境工学
構造岩石学	岩石熱力学特論
白亜紀化石分帯特論	鉱床地質学特論
断層の解剖	地史学特論*
	地球化学*
	同位体地球化学*
	海洋科学*
	海洋底ダイナミックス*
	地球テクトニクス*
*合併科目のため、学部で未履修者に限る。	

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修生

岩石学部門

コア科目	推奨科目
次のコア科目から 2 科目以上を履修すること。	
岩石熱力学特論	鉱床地質学特論
同位体地球化学特論	応用鉱物学特論
超高压岩石学特論	資源地球化学特論
	地球テクトニクス*
	地球化学*
	同位体地球化学*
*合併科目のため、学部で未履修者に限る。	

8 隔年講義等

授業科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を示す。

9 特定課題演習・実験（4単位）

科学・技術の急速な発展に対応し、各専攻が必要に応じて企画して行なう特定のトピックスに関するゼミナールまたは実験である。当該分野で集中講義、集中ゼミナールなどと明示してある年度に限り選択できる。

10 インターンシップ

夏季および春季休業期間中に、関連の企業や研究所において、学習したことが実際の生産現場等でどのように活用されているのかを見聞し体得する。

評価については、受け入れ先からの報告と学生の研修レポートおよびプレゼンテーション等を総合的に判断して行い、基準以上の評価を得た者に2単位が与えられる。

海外における研修および理工学基礎実験のTA（ティーチングアシスタント）も対象とする。

（注意）事前に理工学統合事務所にインターンシップ参加申請書を必ず提出すること。このことにより「学生教育研究災害傷害保険（早稲田大学の正規学生は全員対象）」の対象となる。（死亡保険金、後遺症損害保険金）

また「学生教育研究損害賠償責任保険（大学が認めたインターンシップでの活動中に他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊した場合の損害賠償責任を補償する制度。~~1年間400円~~）」への加入を原則とする。

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推奨科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターンシップ

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帯

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.科目等履修生

11 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費はそれぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

	納入期限
前期学費	4月15日
後期学費	10月1日

(2) 2008年度入学者の学費

【修士課程】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は、入学金が免除になる。

		1年度		2年度	
		入学時	後期	前期	後期
入 学 金		260,000	—	—	—
授 業 料		356,000	356,000	358,500	358,500
施 設 費		75,000	75,000	75,000	75,000
実験演習料	建築学専攻	43,000	43,000	43,000	43,000
	総合機械工学専攻	47,000	47,000	48,000	48,000
	経営システム工学専攻	47,000	47,000	47,000	47,000
	建設工学専攻	43,000	43,000	43,000	43,000
	地球・環境資源理工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000
学 生 健 康 保 険 組 合 費		6,000	—	—	—
合 計	建築学専攻	740,000	474,000	476,500	476,500
	総合機械工学専攻	744,000	478,000	481,500	481,500
	経営システム工学専攻	744,000	478,000	480,500	480,500
	建設工学専攻	740,000	474,000	476,500	476,500
	地球・環境資源理工学専攻	745,000	479,000	481,500	481,500
年額合計	建築学専攻	1,214,000		953,000	
	総合機械工学専攻	1,222,000		963,000	
	経営システム工学専攻	1,222,000		961,000	
	建設工学専攻	1,214,000		953,000	
	地球・環境資源理工学専攻	1,224,000		963,000	

単位 (円)

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推薦科目

8. 隅年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目選択制

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

【博士後期課程】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は、入学金が免除になる。

		1 年度		2 年度		3 年度	
		入学時	後期	前期	後期	前期	後期
入 学 金		260,000	—	—	—	—	—
授 業 料		293,500	293,500	293,500	293,500	293,500	293,500
施 設 費		40,000	40,000	40,000	40,000	—	—
実験演習料	建築学専攻	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000
	総合機械工学専攻	47,000	47,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	経営システム工学専攻	47,000	47,000	47,000	47,000	47,000	47,000
	建設工学専攻	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000
	地球・環境資源理工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
学 生 健 康 保 険 組 合 費		9,000	—	—	—	—	—
合 計	建築学専攻	645,500	376,500	376,500	376,500	336,500	336,500
	総合機械工学専攻	649,500	380,500	381,500	381,500	341,500	341,500
	経営システム工学専攻	649,500	380,500	380,500	380,500	340,500	340,500
	建設工学専攻	645,500	376,500	376,500	376,500	336,500	336,500
	地球・環境資源理工学専攻	650,500	381,500	381,500	381,500	341,500	341,500
年 額 合 計	建築学専攻	1,022,000		753,000		673,000	
	総合機械工学専攻	1,030,000		763,000		683,000	
	経営システム工学専攻	1,030,000		761,000		681,000	
	建設工学専攻	1,022,000		753,000		673,000	
	地球・環境資源理工学専攻	1,032,000		763,000		683,000	

単位（円）

所定年限以上在学する学生の学費取り扱いについては、下記表を参照すること。

	授 業 料	施 設 費	実験演習料
研究指導のみが残っている者	所定額の50%	所定額の1/2 ※博士後期課程は徴収しない	修士課程は修士課程2年次所定額、博士後期課程は博士後期課程3年次所定額
修了必要単位の合計からの不足単位数はあるが研究指導は修了している者			
修了必要単位の合計からの不足単位数が14単位以下で研究指導と授業科目を履修している者			
修了必要単位の合計からの不足単位数が15単位以上で研究指導と授業科目を履修する者			

※「修了必要単位の合計からの不足単位数」は、前学期終了時に算出したものを基準とする。

※在籍中に休学・留学した場合の学費については、理工学統合事務所まで問い合わせること。

(3) 納入方法

学費等の納入方法は、入学手続時に選択をした「学費等振込用紙」での振込、もしくは、郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替のいずれかになる。この口座は、入学手続時に申請したものであ

る。なお、口座振替の場合、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認すること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、学費延納を認められる事がある。詳細については理工学統合事務所に相談すること。

(4) 抹 簿

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に離籍を希望する場合は、理工学統合事務所へ相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
前期学費	4月15日	9月20日	3月31日
後期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制
6. 専修コース制度
7. コア科目
推奨科目
8. 隔年講義等
9. 演習・実験
10. インターン
シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート、
論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

12 共通科目的科目配当表

理工学系3研究科（基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科）の共通科目を以下の通り設置する。

学科名	担当教員	単位	毎週授業時間数		担当	
			前期	後期	研究科	専攻
現代数学概論A	梅垣 敦紀	2	2	0	基幹理工学	数学応用数理
現代数学概論B	村上 順	2	2	0		
現代数学概論C	高橋 秀慈	2	0	2		
現代数学概論D	北田 韶彦, 高橋 大輔	2	0	2		
現代数学概論E	谷口 正信	2	0	2		
数学史特論	林 知宏	2	2	0		
数学と文化史特論	坂口 勝彦	2	0	2		
年金数理概論	鈴木 武, 清水 時彦, 井上 修二, 桑原 高志	2	0	2		
SoC設計技術A	柳澤 政生, 山名 早人, 笠原 博徳, 戸川 望, 木村 啓二 他	2	0	2		
SoC設計技術B	柳澤 政生, 山名 早人, 笠原 博徳, 戸川 望, 木村 啓二 他	2	2	0		
SoC設計技術C	柳澤 政生, 山名 早人, 笠原 博徳, 戸川 望, 木村 啓二 他	2	2	0		
自然エネルギー論	宿谷 昌則	2	0	2	創造理工学	建築学
環境学特論A	長沢 伸也	2	2	0		
環境学特論B	榎原 豊	2	0	2		
環境学特論C	永田 勝也, 大聖 泰弘, 名古屋 俊士	2	2	0		
環境学特論D	(未定)	2	0	2		
知的所有権概論A	羽片 和夫	2	0	2		
知的所有権概論B	尾崎 光三	2	0	2		
MOTのためのハイテク製品マーケット創造	大野 高裕, 石川 雅崇, 中川 慶一郎, 澤口 学	2	0	2		
MOTのための生産・流通システム設計	吉本 一穂, 大塚 仁司, 小川 健秀, 柴田 晴康, 山内 秀樹, 山本 貴之	2	0	集中		経営システム工学
MOTのためのバイオビジネス創造	清水 功雄, 加藤 尚志, 柳澤 政生, 儀合 敦, 鳥田 佳宏, 尾川 信之, 森 有一	2	0	2		
情報理論	平澤 茂一	2	2	0		
原子核概説	鷹野 正利	2	2	0		
量子力学概説	大場 一郎	4	2	2		応用化学
統計力学概説	田崎 秀二, 相澤 洋二	4	2	2		
先進理工技術経営	清水 功雄	2	0	2		
技術者倫理	中村 昌允	1	0	集中		
知的所有権特論	鶴藏 康一	1	0	集中		
社会技術革新学	(未定)	1	0	集中		
化学物質リスクマネジメント	浦生 昌志, 篠原 直秀, 恒見 清孝, 岸本 充生, 松方 正彦, 吉田 喜久雄	1	0	2 *前半		
脳科学チュートリアル	大島 登志男, 宮脇 敦史, 糸原 重美, 谷藤 学, 岡本 仁 他	2	0	2	英語教育センター	生命医科学
神経科学の最前線	湯浅 茂樹, 中村 克樹, 井上 高良, 鈴木 泰行, 関口 正幸, 沼川 忠広, 石橋 英俊, 荒木 敏之, 西野 一三, 武田 伸一, 功刀 浩, 中村 俊, 青木 俊介, 和田 圭司, 泉 明宏, 山村 隆, 本田 学, 花川 隆, 中原 潔	2	0	2		
生命倫理科学	浅野 茂隆	2	0	2		
総合ナノ理工学特論	ナノ理工学専攻全教員	2	2	0		
テクニカルリーディング・ライティング	アントニ ローレンス	2	2 0	0 2		
テクニカルプレゼンテーション	アントニ ローレンス	2	2 0	0 2		
テクニカル・コミュニケーション	金徳 多恵子, プロシャン チェスター	2	2	2		
インターンシップ(注)	全指導教員	2	○	○		

(注) インターンシップは、必ず実習前に、理工学統合事務所に所定の届出を行うこと。

13 各専攻の学科目配当表

建築学専攻

建築学専攻では国際的な建築教育の互換性に対応するため、2000年度より学部・大学院を合わせた6年一貫のカリキュラムをスタートし、また2007年度からは新たに創設された日本技術者教育認定機構（JABEE）の修士課程プログラムの認定基準にも対応する新しい教育内容へとカリキュラムをさらに発展させている。建築学専攻は、建築史・建築計画・都市計画の研究指導を行う建築芸術分野と、環境工学・建築構造・建築生産の研究指導を行う建築工学分野からなる。博士後期課程においては、その専門領域研究者として独立して研究する能力を養成することを共通の目的としているが、修士課程における教育目標は、分野によりまた領域により特質をもつ。

建築芸術分野は、建築の変革と創造の理論を歴史的に考究する建築史、建築における現代の創造そのものを命題とする建築設計・計画、建築の集合としての都市に視点をあてる都市計画の、それぞれが各々の命題と研究方法の独自性を持ちつつ、修士課程においては、専門的深化に閉ざされず、建築に対する計画者としての広い視野と高い見識の養成を等しく目標としているのが特質である。修士論文、修士設計において、互いに関連し合う計画系一般としての主題が許容されているのは、この反映である。

建築工学分野は、それぞれ独自の性格を持つ。環境工学には、都市施設と広域環境の将来像を局部的・総合的に捉える都市環境、災害現象の理論化と防災計画・技術の開発を行う防災工学、気候風土に適応した建築形態の本質と人間と環境との対応やエネルギー問題を科学する建築環境、建築設備システムの計画・設計を扱う建築設備がある。建築構造では、構造材料、耐震構造、弾性力学、曲面構造、地盤・基礎工学、振動工学、構造制御、制震（振）構造、免震構造など、建築構造の基礎から構造設計への応用に亘る広い範囲の専門的科学技術を学ぶ。建築生産では、建築材料における新技術応用としての新素材の特性と用法、建築構造法各種の異なる目的に対応した建築構法やディテールの開発、建築生産システムと施工管理技術の開発などの実務に直結した課題に取り組む。

2007年度からは、UNESCO/UIA建築教育憲章（1996年制定）に基づき、また日本技術者認定機構（JABEE）による学部教育、ならびに大学院修士課程教育の基準に対応する学習・教育の目標を以下の通り定めている。

建築芸術分野 学習・教育の目標

- 学習・教育の目標(A)～(H)は、創造理工学部建築学科の教育カリキュラムに対応するものである。
- (I) 「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものに応える能力を培う
 - (J) 地球的視野と地域固有の歴史風土を理解する視点を併せもち、国際的なフィールドで貢献する能力を養う
 - (K) 建築・都市デザインの実務に触れる機会を持ち、建築家および関連する職能と、その現代社会において果たすべき使命を理解する
 - (L) 建築・都市デザインの芸術性および歴史性に関する深い知識に基づいて、創造的な提案をする能力を身につける
 - (M) 建築・都市および関連分野の、先端的な知識を積極的に吸収する能力を培う

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 両修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターンシップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 科目等履修生

- (N) 建築・都市および関連分野の既往の知見に基づき、生活や地域に根差して幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を培う
- (O) 教員および学生相互の協働作業を通して、建築設計・計画の問題を実践的に解決する能力を培う
- (P) 自らのアイディアを広く社会に提案し、異分野の専門家、ならびに一般市民との協働の中でリーダーシップを発揮する能力を培う

建築学専攻履修方法

- 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
但し、自己の研究に相応しい演習を行うため、指導教員及び科目担当教員の許可を受けて他の教員が担当する演習科目を履修した場合には、その演習科目をもってこれに代えることができる。
- 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
- コア科目及び推奨科目の履修にあたっては、自己の所属する研究指導から指示された履修方法に従うこと。
- 先端建築学論A及び先端建築学論Bは必修である。
- 建築学専攻芸術分野では、JABEE（修士課程）の修了生となる学生が、課程内で履修すべき必修科目が別途定められているので、それに従うこと。
- 建築学専攻芸術分野では、JABEE（修士課程）の修了生となる学生が、課程内に大学間、箇所間などの交換協定により国内外の他大学で習得した単位の認定方法が、別途定められているので、それに従うこと。

各研究指導の概要

◆建築史（建築芸術分野）

建築は環境の中に人間生活の利便性、安全性、快適性そして創造性などを獲得するためにつくられる。従って、工学技術からファインアートまで、あるいは自然科学から人文科学までの多様な分野が相互に関連し合う。どのような素朴な断片を取り出してもそこには総合性が息づいている、そのような場所である。建築学の基礎的学习とともに、大学院における高度な理論的＝実践的探究が建築史学の方法によって遂行される根拠は、建築の本質である多様性と総合性が人間生活に立脚し、歴史的に形成されることにある。日本・アジアおよび文化財保存・修復、およびエジプト、西洋を対象とした古代から近・現代までの建築史および建築理論の研究に力点を置いている。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

◆建築計画（建築芸術分野）

建築設計者の視点に立って、計画の理念や方法を学ぶ一方、内外の建築家についての作家論を展開したり、建築の利用者の立場から、施設の使われ方の調査を行い設計にフィードバックする方法などを探る。具体的には、文献研究、調査研究さらに実際の設計制作を通して各自の建築の考え方を築くとともに、論文発表や設計競技への参加、指導教授のもとないしは学外での実務訓練（インターンシップ）により技術と創造性を高め、広く社会の中から問題を発見して、それに対して創造的な提案をもって応える能力を培う。

◆都市計画（建築芸術分野）

早稲田の都市計画は先鋭的に都市への提案を試みた建築・都市計画家である武基雄と吉阪隆正によって1966年に創設された。以来、戸沼幸市が受け継ぎ人間尺度に基づきながら、地球大の視野から、人間居住の場としての集落・都市の未来像を追求し、社会へ提案し続けている。

調査・研究・計画の対象地は日本を越えて広くアジア地域へ及んでいるが、いずれの場合も現地での研究・実習を原則としている。修了者は十数ヶ国からの留学生とともに、多くの博士学位取得者を含む三百余名にのぼり、国境を越えて各方面で活躍している。現在開設されている3つの研究室は相互に連携をとりながら活動しているが、都市設計・計画論、都市景観設計、住宅地・居住地環境計画、まちづくり・都市再生、制度技術論、都市計画史、都市・地域振興計画等を主要課題として研究に取り組んでいる。

◆環境工学（建築工学分野）

環境工学は、都市環境、防災工学、建築環境、環境メディアから成り、それぞれ環境問題やエネルギー問題に対処するという共通認識の下に建築都市の環境計画について幅広く活動している。都市環境では、都市的なスケールでの設備と広域的な環境物理を学びつつ、社会的な視野で環境問題に対処した都市環境の技術開発と実際のプロジェクトに関わる基礎研究を行う。防災工学では、火災等の災害現象の解明とモデル化を基盤として、現代社会が直面する安全上の諸問題の解決手法の開発や、新しい技術・多様な設計手法の展開を支援する防災手法の研究を行っている。建築環境では、室内環境の快適性・健康性及びエネルギーの有効利用について理論解析、実験、生理・心理評価を行い、環境に適応した建築形態について考察し、人間と環境との関係を科学する。建築設備では、空気調和、衛生、防災、電気、情報などの建築設備をシステム論として扱い、近代建築の潮流の中でその特質となった高度な技術の発展過程と未来への期待を論ずる。建築・都市におけるメディアの重要性を展望して、環境メディアへも研究のウイングを広げている。

◆建築構造（建築工学分野）

建築構造は、建物の安全・快適性に密接に係わる技術であり、安全・快適な建築を実現していくうえでの諸課題をさまざまな視点から研究・考察している。近年、「建築構造」として分類される学問分野は非常に多岐に亘っている。従って、修士課程において学んでおくべきことも数多い。研究テーマとしても、力学を共通のキーワードとする土木工学分野、機械工学分野はもちろん、最近では電気工学分野の一部とも密接に関連するものも少なくない。建築構造では、地震工学、構造材料耐震構造、振動工学、弾性力学、曲面構造、土質・基礎工学から、構造信頼性、構造制御、制震構造、免震構造に至るまで、幅広い研究指導が行われる。

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推薦科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 重複コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターンシップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 科目等履修

◆建築生産（建築工学分野）

建築生産では、建築材科学・建築構造法・建築生産マネジメントに関する教育・研究を行っている。また、これらの諸分野に係わる調査・研究を通じて、建築生産の在り方について追究するとともに、新技術の開発を目指して努力している。建築材科学では、材料の性質を正しく理解し、特性を生かした適用の道を探るとともに、設計・施工・維持管理の各段階において、材料に対する注意点の把握に努めている。建築構造法では、各種の構造に対する理解を深めるとともに、建築部位の構成原理を追求し、建築物の時間的变化にかかる事象、およびそれに対応したハード面およびソフト面での技術開発に努めている。（建築施工法について、建築産業の中長期的展望に立ち大規模工事を中心に、施工に関する先端技術や、工事管理をめぐる諸技術の体系化について研究を進めている。）建築生産マネジメントでは、合理化・近代化の目標を掲げて、建築生産の仕組みや職能に起きたつある変革の動きを探り、これに必要となる建設産業研究および管理手法の開発を行っている。さらに、上記した教育・研究上の基本的課題に合わせ、次世代建築工法の基幹となる施工用ロボットおよび自動化生産方式のための理論的研究を展開している。

（I）研究指導

（修士課程）

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
建築芸術分野	比較建築史方法研究	中川 武
	建築技術史・表現史研究	中谷 礼仁
	建築社会論研究	石山 修武
	建築意匠論研究	入江 正之
	建築情報論研究	渡辺 仁史
	建築空間論研究	古谷 誠章
	都市設計・計画研究	佐藤 滋
	景観・地域デザイン研究	後藤 春彦
	居住地設計・計画研究	有賀 隆
	建築防災研究	長谷見 雄二
	建築環境研究	田邊 新一
	環境メディア研究	高口 洋人
	建築構造設計研究	曾田 五月也
建築工学分野	応答制御構造研究	西谷 章
	連続体力学研究	前田 寿朗
	構造システム研究	新谷 真人
	地震工学研究	山田 真
	建築生産マネジメント研究	嘉納 成男
	建築構法研究	小松 幸夫
	建築材料研究	輿石 直幸

(博士後期課程)

分野	研究指導	担当教員	
建築芸術分野	比較建築史方法研究 建築技術史・表現史研究 建築社会論研究 建築意匠論研究 建築情報論研究 建築空間論研究 都市設計・計画研究 景観・地域デザイン研究 居住地設計・計画研究	中川 武 中谷 礼仁 石山 修武 入江 正之 渡辺 仁史 古谷 誠章 佐藤 滋 後藤 春彦 有賀 隆	I 特徴
		長谷見 雄二 田邊 新一 高口 洋人 曾田 五月也 西谷 章 前田 寿朗 新谷 真人 山田 真 嘉納 成男 小松 幸夫 輿石 直幸	II 沿革と概要
建築工学分野	建築防災研究 建築環境研究 環境メディア研究 建築構造設計研究 応答制御構造研究 連続体力学研究 構造システム研究 地震工学研究 建築生産マネジメント研究 建築構法研究 建築材料研究		III 研究科要項
			IV 学生生活
			V 付録
			1. 履修方法
			2. 学位
			3. 先取り履修
			4. 後取り履修
			5. ユニット制度
			6. 専修コース制度
			7. コア科目 推薦科目
			8. 隔年講義等
			9. 演習・実験
			10. インターン シップ
			11. 学費
			12. 共通科目
			13. 専攻別案内
			建築
			総合機械
			経営
			建設
			地球資源
			14. 教職免許
			15. 科目登録
			16. 授業時間帯
			17. レポート・ 論文作成
			18. 成績の表示
			19. 科目履修生

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義。年度による開講科目は時間割等を参照のこと。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
先端建築学論A	輿石 直幸, 前田 寿朗, 曽田 五月也, 中川 武, 他	2	2	0
先端建築学論B	有賀 隆, 田邊 新一, 後藤 春彦, 古谷 誠章, 他	2	0	2
建築史特論	後藤 久	2	2	0
建築表現特論	中谷 礼仁	2	2	0
近代建築史特論	太田 敬二	2	2	0
建築社会特論・建築と社会	石山 修武	2	2	0
建築意匠特論・建築家論	入江 正之	2	2	0
建築情報特論・建築設計と情報	渡辺 仁史	2	0	2
建築空間特論・建築と都市	古谷 誠章	2	0	2
建築企画特論	中村 良三	2	2	0
都市設計・計画特論	佐藤 滋	2	2	0
景観・地域デザイン特論	後藤 春彦	2	0	2
居住地設計・計画特論	有賀 隆	2	0	2
建築防災特論	長谷見 雄二	2	0	2
建築環境特論	田邊 新一	2	0	2
環境メディア特論	高口 洋人	2	0	2
△建築環境工学特論	平手 小太郎	2	2	0
建築設備工学特論	野原 文男	2	0	2
△建築音響特論	橘 秀樹	2	0	2
△自然環境特論	伊香賀 俊治	2	2	0
△地球環境特論	岩村 和夫	2	0	2
高減衰構造特論	曾田 五月也	2	2	0
構造システム制御特論	西谷 章	2	0	2
連続体力学特論	前田 寿朗	2	0	2
構造システム特論	新谷 真人	2	2	0
地震工学特論	山田 真	2	0	2
建築構造特論A	伊沢 久	2	2	0
△鉄骨構造特論	中込 忠男, 小山 雅人	2	0	2
△鉄筋コンクリート構造特論	田才 晃	2	0	2
建築構造特論C	梅野 岳	2	0	2
地震学特論	島崎 邦彦	2	2	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
建築生産マネジメント特論	嘉納 成男	2	2	0
建築構法計画特論	小松 幸夫	2	2	0
建築材料特論	輿石 直幸	2	0	2
建築生産特論	遠藤 和義	2	2	0
建築生産システム特論	松村 秀一	2	0	2
建築施工特論	富田 真一	2	0	2

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推奨科目
- 8. 隔年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内

- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート、
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目履修生

(III) 演習科目

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推奨科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンシップ
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目選択

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
比較建築史演習A	中川 武	3	3	0
比較建築史演習B	中川 武	3	0	3
比較建築史演習C	中川 武	3	3	0
比較建築史演習D	中川 武	3	0	3
建築史演習A	中谷 礼仁	3	3	0
建築史演習B	中谷 礼仁	3	0	3
建築史演習C	中谷 礼仁	3	3	0
建築史演習D	中谷 礼仁	3	0	3
建築社会論演習A	石山 修武	3	3	0
建築社会論演習B	石山 修武	3	0	3
建築社会論演習C	石山 修武	3	3	0
建築社会論演習D	石山 修武	3	0	3
建築意匠論演習A	入江 正之	3	3	0
建築意匠論演習B	入江 正之	3	0	3
建築意匠論演習C	入江 正之	3	3	0
建築意匠論演習D	入江 正之	3	0	3
建築情報論演習A	渡辺 仁史	3	3	0
建築情報論演習B	渡辺 仁史	3	0	3
建築情報論演習C	渡辺 仁史	3	3	0
建築情報論演習D	渡辺 仁史	3	0	3
建築空間論演習A	古谷 誠章	3	3	0
建築空間論演習B	古谷 誠章	3	0	3
建築空間論演習C	古谷 誠章	3	3	0
建築空間論演習D	古谷 誠章	3	0	3
都市設計・計画演習A	佐藤 滋	3	3	0
都市設計・計画演習B	佐藤 滋	3	0	3
都市設計・計画演習C	佐藤 滋	3	3	0
都市設計・計画演習D	佐藤 滋	3	0	3
景観・地域デザイン演習A	後藤 春彦	3	3	0
景観・地域デザイン演習B	後藤 春彦	3	0	3
景観・地域デザイン演習C	後藤 春彦	3	3	0

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
景観・地域デザイン演習D	後藤 春彦	3	0	3
居住地設計・計画演習A	有賀 隆	3	3	0
居住地設計・計画演習B	有賀 隆	3	0	3
居住地設計・計画演習C	有賀 隆	3	3	0
居住地設計・計画演習D	有賀 隆	3	0	3
建築防災演習A	長谷見 雄二	3	3	0
建築防災演習B	長谷見 雄二	3	0	3
建築防災演習C	長谷見 雄二	3	3	0
建築防災演習D	長谷見 雄二	3	0	3
建築環境演習A	田邊 新一	3	3	0
建築環境演習B	田邊 新一	3	0	3
建築環境演習C	田邊 新一	3	3	0
建築環境演習D	田邊 新一	3	0	3
環境メディア演習A	高口 洋人	3	3	0
環境メディア演習B	高口 洋人	3	0	3
環境メディア演習C	高口 洋人	3	3	0
環境メディア演習D	高口 洋人	3	0	3
建築構造設計演習A	曾田 五月也	3	3	0
建築構造設計演習B	曾田 五月也	3	0	3
建築構造設計演習C	曾田 五月也	3	3	0
建築構造設計演習D	曾田 五月也	3	0	3
応答制御構造演習A	西谷 章	3	3	0
応答制御構造演習B	西谷 章	3	0	3
応答制御構造演習C	西谷 章	3	3	0
応答制御構造演習D	西谷 章	3	0	3
連続体力学演習A	前田 寿朗	3	3	0
連続体力学演習B	前田 寿朗	3	0	3
連続体力学演習C	前田 寿朗	3	3	0
連続体力学演習D	前田 寿朗	3	0	3
構造システム演習A	新谷 真人	3	3	0
構造システム演習B	新谷 真人	3	0	3
構造システム演習C	新谷 真人	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推薦科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンシップ
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目等履修

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
構造システム演習D	新谷 真人	3	0	3
地震工学演習A	山田 真	3	3	0
地震工学演習B	山田 真	3	0	3
地震工学演習C	山田 真	3	3	0
地震工学演習D	山田 真	3	0	3
建築生産マネジメント演習A	嘉納 成男	3	3	0
建築生産マネジメント演習B	嘉納 成男	3	0	3
建築生産マネジメント演習C	嘉納 成男	3	3	0
建築生産マネジメント演習D	嘉納 成男	3	0	3
建築構法演習A	小松 幸夫	3	3	0
建築構法演習B	小松 幸夫	3	0	3
建築構法演習C	小松 幸夫	3	3	0
建築構法演習D	小松 幸夫	3	0	3
建築材料演習A	輿石 直幸	3	3	0
建築材料演習B	輿石 直幸	3	0	3
建築材料演習C	輿石 直幸	3	3	0
建築材料演習D	輿石 直幸	3	0	3

(IV) 実習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
建築史調査・実習	中川 武, 中谷 礼仁	2	2	0

総合機械工学専攻

総合機械工学専攻では、機械工学体系の総合化と再構築を企図すると共に、科学的究明と学の活用によって社会に貢献する工学の真髄を極めることで、新しい視点での特色ある社会的実践および新らしい機械工学が進むべき道の開拓を目指している。

教育研究では、将来を意識した発見的科学と可及的速やかに社会に貢献できる実現型工学をバランスよく配置して展開できる教育研究システムを構築し、研究・開発・実験・実証・実用化からなる一連のプロセスに学生自身が参加することで、現場主義を貫きつつ、学の究明と活用に十分実力を持った人材を育成する。それにより、専門的な知恵と知識を備える高度専門職業人ならびに社会に貢献できる実務者や研究者を養成する。

本専攻は、デザイン・共創部門、ロボティクス・医療福祉部門、環境・エネルギー部門の3つの部門から構成される。また、関連分野として、先進理工学研究科の生命理工学専攻、独立大学院環境・エネルギー研究科がある。

総合機械工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に参入しない。
3. 第1年度には講義科目16単位を取得しなければならない。

各部門の概要

◆デザイン・共創部門

技術に定位を置く機械工学の中核として設計、広くはデザインと呼ばれる人間の行為がある。この部門では、価値観や背景の異なる多様な人間の生活（営み）の場に調和した教育・研究を展開する。すなわち、コンピュータを駆使した機械設計の基本的な教育・研究を基に人間の生活の場に共存在（共創）技術やデザイン技術の開発を目指した新しい学問領域を開拓していく。具体的にはこの新しい視点に立つ各種の機械デザイン、今後、急速な発展が見られる宇宙構造物のデザイン、コミュニケーションシステムのデザイン、さらに広くはコミュニティデザインも目指す。

◆ロボティクス・医療福祉部門

超高齢社会を迎えた日本を始めとした先進各国では、「健康」が最大の関心事となっている。この部門では、工学のみならず医学、生理学、心理学も含めた学際的アプローチにより、人間支援ロボット、福祉機器、手術支援システム、人工臓器などの先端バイオメカトロニクス技術を探求することで、高い“生活の質”を保証するシステムの開発研究を行う。具体的には、ヒューマノイドロボット、リハビリ支援システム、低侵襲手術支援システム、人工心臓などのシステム開発、およびそれらの基盤となる人間の運動・制御・認知特性および生体機能の解明などを進める。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推薦科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推薦科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターンシップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 科目等履修生

◆環境・エネルギー部門

種々の機械・装置の設計やその研究開発に当たっては、地球規模の環境や生活環境の保全に配慮して、資源・エネルギーの有効利用を図ることが益々要求される。すなわち21世紀が環境の世紀といわれる所以でもある。この部門では、特に熱エネルギーとその変換にかかわる基礎現象ならびにこれを応用した機械装置を対象に、教育・研究を通じて環境・エネルギーに係わる工学的緒問題を扱う高度な技術者、ならびに研究者を養成することを目標とする。特に環境・エネルギー分野の研究の広がりに配慮して、大久保キャンパスのみならず本庄早稲田地区を社会実験場として位置づけている環境関連の独立研究科やプロジェクト研究所、環境総合研究センター、他研究科などとも連携している。これらのプロジェクトに学生自ら参加することによって、挑戦的な問題の解明や解決法を学び、かつ科学的・工学的両手法を駆使しうる人材を養成する。

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
デザイン・共創部門	機械設計研究 最適デザイン研究 共創・コミュニケーション研究 機械材料デザイン研究 輸送機器・エネルギー材料工学研究 システムデザイン研究 共創インタフェース研究	林 洋次 山川 宏 三輪 敬之 堀部 進 吉田 誠 宮下 朋之 上杉 繁
ロボティクス・医療福祉部門	知能機械学研究 メディカル・ロボティクス研究 医用機械工学研究 バイオ・ロボティクス研究	菅野 重樹, 谷江 和雄 菅野 重樹, 藤江 正克 山川 宏, 梅津 光生 三輪 敬之, 高西 淳夫
環境・エネルギー部門	環境・モビリティ研究 熱エネルギー反応工学研究 環境・化学エネルギー変換研究 環境配慮デザイン研究 環境・新エネルギー研究	大聖 泰弘 草鹿 仁 中垣 隆雄 草鹿 仁, 永田 勝也 大聖 泰弘, 勝田 正文

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
デザイン・共創部門	機械設計研究 最適デザイン研究 共創・コミュニケーション研究 機械材料デザイン研究 輸送機器・エネルギー材料工学研究 システムデザイン研究 共創インターフェース研究 知能機械学研究	林 洋次 山川 宏 三輪 敬之 堀部 進 吉田 誠 宮下 朋之 上杉 繁
ロボティクス・医療福祉部門	メディカル・ロボティクス研究 医用機械工学研究 バイオ・ロボティクス研究	菅野 重樹, 谷江 和雄, 大道 武生 山川 宏, 梅津 光生 三輪 敬之, 高西 淳夫
環境・エネルギー部門	環境・モビリティ研究 熱エネルギー反応工学研究 環境・化学エネルギー変換研究 環境配慮デザイン研究 環境・新エネルギー研究	大聖 泰弘 草鹿 仁 中垣 隆雄 草鹿 仁, 永田 勝也 大聖 泰弘, 勝田 正文

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修生

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推奨科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンシップ
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目等履修

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
機械構造のダイナミクスと設計	山川 宏	2	2	0
環境・エネルギー変換工学特論	大聖 泰弘	2	0	2
燃焼工学	永田 勝也	2	0	2
伝熱工学特論	勝田 正文	2	0	2
熱エネルギー反応工学特論	草鹿 仁	2	2	0
環境・化学エネルギー変換特論	中垣 隆雄	2	2	0
熱機関特論	谷山 雅俊	2	0	2
自動車工学A	大聖 泰弘, 小高 松男, 小林 三郎, 谷口 哲夫, 石 太郎, 荒川 健	2	2	0
自動車工学B	大聖 泰弘, 岡田 健治, 本田 康裕	2	0	2
知能機械学特論	菅野 重樹	2	2	0
精密加工システム特論	富田 良幸	2	0	2
バイオ・マイクロマシーン特論	伊東 明俊	2	2	0
環境計測システム工学特論	岸本 健	2	2	0
材料強度・破壊学特論	堀部 進	2	2	0
輸送機器・エネルギー材料工学特論	吉田 誠	2	2	0
生命機械工学特論 I	三輪 敬之	2	2	0
生命機械工学特論 II	本間 大	2	0	2
人間デザイン工学特論	上杉 繁	2	0	2
ヒューマン・インターフェース特論	渡辺 昌洋	2	2	0
材料デザイン特論	西原 公	2	0	2
バイオ・ロボティクス特論	高西 淳夫	2	2	0
メディカル・ロボティクス特論	藤江 正克	2	2	0
開発設計工学	中澤 弘	2	2	0
臓器工学特論	梅津 光生	2	0	2
エネルギー最前線(寄附講座)	草鹿 仁, 大聖 泰弘	2	2	0
宇宙科学技術(寄附講座)	山川 宏	2	2	0
鉄鋼材料学(寄附講座)	竹内 泉 他	2	2	0
新構造材料	中村 森彦, 堀部 進, 牧野 彰宏, 香川 豊	2	2	0
宇宙構造の設計と制御	角田 博明, 渡辺 和樹, 葛西 時雄, 何 建梅	2	0	2
宇宙構造物工学	名取 適弘	2	2	0
機械構造の最適化/満足化設計	宮下 朋之	2	0	2

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
構造振動演習A	山川 宏	3	3	0
構造振動演習B	山川 宏	3	0	3
構造振動演習C	山川 宏	3	3	0
構造振動演習D	山川 宏	3	0	3
機械設計演習A	林 洋次	3	3	0
機械設計演習B	林 洋次	3	0	3
機械設計演習C	林 洋次	3	3	0
機械設計演習D	林 洋次	3	0	3
機械材料デザイン演習A	堀部 進	3	3	0
機械材料デザイン演習B	堀部 進	3	0	3
機械材料デザイン演習C	堀部 進	3	3	0
機械材料デザイン演習D	堀部 進	3	0	3
輸送機器・エネルギー材料工学演習A	吉田 誠	3	3	0
輸送機器・エネルギー材料工学演習B	吉田 誠	3	0	3
輸送機器・エネルギー材料工学演習C	吉田 誠	3	3	0
輸送機器・エネルギー材料工学演習D	吉田 誠	3	0	3
構造設計演習A	宮下 朋之	3	3	0
構造設計演習B	宮下 朋之	3	0	3
構造設計演習C	宮下 朋之	3	3	0
構造設計演習D	宮下 朋之	3	0	3
人間デザイン演習A	上杉 繁	3	3	0
人間デザイン演習B	上杉 繁	3	0	3
人間デザイン演習C	上杉 繁	3	3	0
人間デザイン演習D	上杉 繁	3	0	3
知能機械学演習A	菅野 重樹	3	3	0
知能機械学演習B	菅野 重樹	3	0	3
知能機械学演習C	菅野 重樹	3	3	0
知能機械学演習D	菅野 重樹	3	0	3
コミュニケーション・デザイン演習A	三輪 敬之	3	3	0
コミュニケーション・デザイン演習B	三輪 敬之	3	0	3
コミュニケーション・デザイン演習C	三輪 敬之	3	3	0

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推薦科目
- 8. 隅年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械**
- 経営**
- 建設**
- 地球資源**
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート・
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目履修

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推奨科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンシップ
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目等履修生

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
コミュニケーション・デザイン演習D	三輪 敬之	3	0	3
バイオ・ロボティクス演習A	高西 淳夫	3	3	0
バイオ・ロボティクス演習B	高西 淳夫	3	0	3
バイオ・ロボティクス演習C	高西 淳夫	3	3	0
バイオ・ロボティクス演習D	高西 淳夫	3	0	3
医用機械工学演習A	梅津 光生	3	3	0
医用機械工学演習B	梅津 光生	3	0	3
医用機械工学演習C	梅津 光生	3	3	0
医用機械工学演習D	梅津 光生	3	0	3
医療福祉工学演習A	藤江 正克	3	3	0
医療福祉工学演習B	藤江 正克	3	0	3
医療福祉工学演習C	藤江 正克	3	3	0
医療福祉工学演習D	藤江 正克	3	0	3
環境・モビリティ演習A	大聖 泰弘	3	3	0
環境・モビリティ演習B	大聖 泰弘	3	0	3
熱エネルギー反応工学演習A	草鹿 仁	3	3	0
熱エネルギー反応工学演習B	草鹿 仁	3	0	3
環境・化学エネルギー変換演習A	中垣 隆雄	3	3	0
環境・化学エネルギー変換演習B	中垣 隆雄	3	0	3
エネルギー・環境演習A	永田 勝也	3	3	0
エネルギー・環境演習B	永田 勝也	3	0	3
伝熱演習A	勝田 正文	3	3	0
伝熱演習B	勝田 正文	3	0	3
環境・エネルギー特別演習A	永田 勝也, 大聖 泰弘, 勝田 正文, 草鹿 仁, 中垣 隆雄	3	3	0
環境・エネルギー特別演習B	永田 勝也, 大聖 泰弘, 勝田 正文, 草鹿 仁, 中垣 隆雄	3	0	3

(IV) 実習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
デザイン・共創実習A	デザイン・共創部門全教員	1	2	0
デザイン・共創実習B	デザイン・共創部門全教員	1	0	2
生命理工学特別実習（生命理工と共通） (生命理工学専攻：生命理工学特物演習)	ロボティクス・医療福祉部門全教員, 清水 功雄	1	夏期集中	0
先端医療現場実習 (生命理工学専攻：先端医療現場演習)	ロボティクス・医療福祉部門全教員, 伊関 洋, 宗田 孝之, 藤本 哲男	1	夏期集中	0
環境・エネルギー学実習A (独立大学院：環境・エネルギー学演習A)	環境・エネルギー部門全教員	3	2	0
環境・エネルギー学実習B (独立大学院：環境・エネルギー学演習B)	環境・エネルギー部門全教員	3	0	2

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推奨科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート、
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修生

経営システム工学専攻

経営システム工学専攻では、企業をはじめとする組織体の経営に関するあらゆる機構としての経営システムに対して工学的にアプローチし、経営活動の計画者と管理者に具体的かつ有効な課題解決のための方法を提供する学問分野の研究・教育を行っている。研究・教育は、人・物・設備・金・情報といった経営資源をいかに活用するかという基本課題を中心に、問題の発見と構造化、問題の理論化・体系化、コンピュータや数理技術・情報技術を駆使した問題分析や解決方法に関する最新の専門知識の教授と能力の開発を図ると同時に、それらに関する新しい知見・成果を得ることを目指している。

本専攻における研究・教育は、経営の諸分野のシステム体系とそのあり方を検討する対象分野別展開と、各分野で活用される様々な工学的アプローチによる手法別展開とが、タテ糸とヨコ糸を織りなしている。対象分野別展開としては、経営の企画から、開発、製造、品質保証、設備、販売、財務、人事、情報に至る広範な計画・管理分野をカバーし、手法別展開としては、オペレーションズリサーチ(OR)、統計解析、知識工学、情報数理、システム工学、ソフトウェア工学、経済性工学、メソッドエンジニアリング、人間工学等が含まれる。

本専攻は、経営デザイン部門、経営数理部門の2部門からなり、研究室によって差があるものの、経営デザイン部門では対象分野別展開を中心に、一方、経営数理部門では手法別展開を中心に研究・教育がすすめられている。

経営システム工学専攻の履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目(A1, A2, B1, B2)（「管理システム分析演習」を除く）は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目(A1, A2, B1, B2)（「管理システム分析演習」を除く）は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. 講義科目を履修するにあたり、コア科目・推奨科目に関する条件を満たすこと。

各部門の概要

A. 経営デザイン部門

今日の産業社会の抱えている問題を解決できる経営コンセプト、プロセスそしてオペレーションといったさまざまなレベルでの仕組みを構築し、新しい経営モデルの提案を行うことで人々の生活の質(Quality of Life)の向上を目指す。また、これらの仕組みの運用や設計に必要な技法の開発をする。

経営デザイン部門の研究分野

◆ソフトウェア工学、オフィス情報システム

○進化・適応型情報システム構築技術 ○ソフトウェア要求分析 ○ソフトウェア品質評価 ○ユーザーアンターフェイス

◆生産・流通モデル、経営管理情報システム

○知的生産システム ○サプライチェイン管理技法 ○部品循環型流通システム ○オフィスワーク管理技法

- ◆プロフィットデザイン
アクティビティベーストコスティング 企業価値評価 価格戦略 環境マーケティング
- ◆生産管理学
リーン・アジャイル生産 生産戦略研究 国際生産物流システム 生産性向上スキーム TPM
- ◆人間工学、人間生活工学
ヒューマンファクターズ 認知行動モデル ユーザビリティ ユニバーサルデザイン
- ◆ライフサイクルエンジニアリング
循環型生産のための製品・設備ライフサイクル管理 メンテナンスシステム工学 生産加工知識管理
- ◆品質マネジメント
品質マネジメントの技法開発 感性品質に関する研究 医療の質保証 TQM (Total Quality Management)
- ◆施設計画・ロジスティクス
施設計画のための設計技法 運搬システム（無人搬送車ルート等）の設計 ロジスティクス（物流）のための設計方法
- B. 経営数理部門**
- 特定の領域に限定することなく、経営管理に関するさまざまな問題解決に役立つ汎用的な数理技術の開発を行う。代表的な数理技術には、統計・確率解析、オペレーションズリサーチ、情報数理、システム理論、シミュレーションなどがある。
- 経営数理部門の研究分野**
- ◆応用確率過程
待ち行列理論 統計的シミュレーションの方法論 金融工学
- ◆システム論、システム科学
数理的システム理論 適応システム論 エージェントベースアプローチ 技術的政策評価
ソフトシステムアプローチ
- ◆統計科学
統計的多重比較法 多変量解析法 実験計画法 統計的決定理論 工程解析への応用
- ◆情報数理応用
情報システムの最適設計 符号化情報学応用 情報検索 情報セキュリティー
- ◆情報理論とその応用
情報源符号化、通信路符号化 不確実な知識の表現と推論 統計学応用（モデル選択、データ解析） 学習理論
- ◆オペレーションズリサーチ
組合せ最適化 数理計画法 ロジスティクスの定量分析 シミュレーション

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推薦科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
経営デザイン部門	ソフトウェア工学研究 生産システムデザイン研究 プロフィットデザイン研究 生産管理学研究 人間生活工学研究 ライフサイクル管理研究 品質マネジメント研究 施設・ロジスティクス設計研究 企業経営論研究	東 基衛 大成 尚 大野 高裕 片山 博 小松原 明哲 高田 祥三 棟近 雅彦 吉本 一穂 大野 高裕
経営数理部門	応用確率過程研究 システム論研究 統計科学研究 情報数理応用研究 オペレーションズリサーチ研究 知識情報処理研究	逆瀬川 浩孝 高橋 真吾 永田 靖 平澤 茂一 森戸 晋, 今泉 淳 菱山 玲子

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
経営デザイン部門	ソフトウェア工学研究 生産システムデザイン研究 プロフィットデザイン研究 生産管理学研究 人間生活工学研究 ライフサイクル管理研究 品質マネジメント研究 施設・ロジスティクス設計研究 企業経営論研究	東 基衛 大成 尚 大野 高裕 片山 博 小松原 明哲 高田 祥三 棟近 雅彦 吉本 一穂 大野 高裕
経営数理部門	応用確率過程研究 システム論研究 統計科学研究 情報数理応用研究 オペレーションズリサーチ研究 知識情報処理研究	逆瀬川 浩孝 高橋 真吾 永田 靖 平澤 茂一 森戸 晋 菱山 玲子

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
オフィス情報システム特論	東 基衛	2	0	2
生産システム工学特論	大成 尚	2	2	0
プロフィットデザイン特論	大野 高裕	2	2	0
生産管理学特論	片山 博	2	2	0
生産管理システム解析	片山 博	2	0	2
人間工学特論	小松原 明哲	2	0	2
製品・設備ライフサイクル工学特論	高田 祥三	2	0	2
品質マネジメント特論	棟近 雅彦	2	2	0
施設・ロジスティクス設計特論	吉本 一穂	2	2	0
ワークデザイン	黒須 誠治	2	0	2
応用確率過程特論	逆瀬川 浩孝	2	0	2
システム理論特論	高橋 真吾	2	2	0
応用統計学特論	江口 真透	2	2	0
情報数理応用特論	平澤 茂一	2	0	2
知識情報処理特論	菱山 玲子	2	0	2
数理計画特論	森戸 晋	2	2	0
組合せ最適化特論	森戸 晋	2	0	2
マーケティングサイエンス	石川 弘道	2	0	2
設計・生産プロセス評価	高田 祥三, 大橋 敏二郎	2	2	0
研究・技術管理特論	山下 公大	2	0	2
意思決定論	土方 正夫	2	2	0
効用理論	常田 稔	2	0	2
経営システム工学特別講義	武田 健二	2	2	0
金融工学	枇々木 規雄	2	2	0
実験計画法特論	永田 靖	2	2	0
要求工学	山本 修一郎	2	2	0
情報セキュリティマネジメント	力 利則	2	0	2
ネットワーク技術特論	曾田 雅樹	2	0	2
マルチメディアシステム構成論	浦野 義頼	2	0	2
経営実践・国内プロジェクト	吉本 一穂, 他・専攻全教員	2	集中	
経営実践・海外プロジェクト	吉本 一穂, 他・専攻全教員	2	集中	

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推薦科目
- 8. 隔年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械**
- 経営**
- 建設**
- 地球資源**
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート・
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目履修性

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推奨科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンス
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目選択

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
経営システム・国際プロジェクト	吉本 一穂, 他・専攻全教員	2	集中	
以下の科目は学部設置の合併科目である				
企業戦略論	池田 和明	2	2	0
応用システム思考	高橋 真吾	2	2	0
ロジスティクス	吉本 一穂	2	0	2
設備管理	高田 祥三	2	2	0
製品開発工学	高田 祥三, 大成 尚, 斎藤 正武	2	2	0
製造プロセス工学	高田 祥三, 矢野 健	2	0	2
生産システム論	片山 博	2	0	2
施設計画	吉本 一穂	2	2	0
生産・流通マネジメント	高田 祥三, 大成 尚	2	2	0
エネルギー管理	木村 茂雄	2	0	2
環境マネジメント概論	岡本 真一	2	0	2
コーポレートファイナンス	大野 高裕	2	2	0
マーケティングリサーチ	石川 弘道	2	2	0
マーケティング・経営戦略	永井 猛	2	0	2
ヒューマンファクターズマネジメント	小松原 明哲	2	2	0
ソフトウェア工学	東 基衛	2	0	2
オフィス情報システム	東 基衛	2	0	2
多変量解析法A	永田 靖	2	2	0
実験計画法	棟近 雅彦	2	2	0
数理統計学	永田 靖	2	0	2
オペレーションズリサーチA	森戸 晋, 今泉 淳, 植名 孝之	2	0	2
オペレーションズリサーチB	逆瀬川 浩孝	2	2	0
情報数理応用	平澤 茂一	2	0	2
知識情報処理	菱山 玲子	2	2	0
人間生活工学	小松原 明哲	2	0	2
人材マネジメント論	梅津 祐良	2	0	2
国際知的財産経営論	森 康晃	2	0	2
ソフトウェアマネジメント	東 基衛	2	2	0

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時 間 数	
			前期	後期
ソフトウェア工学演習A1	東 基衛	3	3	0
ソフトウェア工学演習A2	東 基衛	3	0	3
ソフトウェア工学演習B1	東 基衛	3	3	0
ソフトウェア工学演習B2	東 基衛	3	0	3
生産システムデザイン演習A1	大成 尚	3	3	0
生産システムデザイン演習A2	大成 尚	3	0	3
生産システムデザイン演習B1	大成 尚	3	3	0
生産システムデザイン演習B2	大成 尚	3	0	3
プロフィットデザイン演習A1	大野 高裕	3	3	0
プロフィットデザイン演習A2	大野 高裕	3	0	3
プロフィットデザイン演習B1	大野 高裕	3	3	0
プロフィットデザイン演習B2	大野 高裕	3	0	3
生産管理学演習A1	片山 博	3	3	0
生産管理学演習A2	片山 博	3	0	3
生産管理学演習B1	片山 博	3	3	0
生産管理学演習B2	片山 博	3	0	3
人間生活工学演習A1	小松原 明哲	3	3	0
人間生活工学演習A2	小松原 明哲	3	0	3
人間生活工学演習B1	小松原 明哲	3	3	0
人間生活工学演習B2	小松原 明哲	3	0	3
ライフサイクル管理演習A1	高田 祥三	3	3	0
ライフサイクル管理演習A2	高田 祥三	3	0	3
ライフサイクル管理演習B1	高田 祥三	3	3	0
ライフサイクル管理演習B2	高田 祥三	3	0	3
品質マネジメント演習A1	棟近 雅彦	3	3	0
品質マネジメント演習A2	棟近 雅彦	3	0	3
品質マネジメント演習B1	棟近 雅彦	3	3	0
品質マネジメント演習B2	棟近 雅彦	3	0	3
施設・ロジスティクス設計演習A1	吉本 一穂	3	3	0
施設・ロジスティクス設計演習A2	吉本 一穂	3	0	3
施設・ロジスティクス設計演習B1	吉本 一穂	3	3	0

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推薦科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターナー
シップ

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帶

17.レポート・
論文作成

18.成績の表示

19.科目履歴

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1.履修方法
2.学位
3.先取り履修
4.後取り履修
5.ユニット制度
6.専修コース制度
7.コア科目 推奨科目
8.隔年講義等
9.演習・実験
10.インターナンシップ
11.学費
12.共通科目
13.専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14.教職免許
15.科目登録
16.授業時間帯
17.レポート・論文作成
18.成績の表示
19.科目等履修

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
施設・ロジスティクス設計演習B2	吉本 一穂	3	0	3
企業経営論演習A1	大野 高裕	3	3	0
企業経営論演習A2	大野 高裕	3	0	3
企業経営論演習B1	大野 高裕	3	3	0
企業経営論演習B2	大野 高裕	3	0	3
応用確率過程演習A1	逆瀬川 浩孝	3	3	0
応用確率過程演習A2	逆瀬川 浩孝	3	0	3
応用確率過程演習B1	逆瀬川 浩孝	3	3	0
応用確率過程演習B2	逆瀬川 浩孝	3	0	3
システム論演習A1	高橋 真吾	3	3	0
システム論演習A2	高橋 真吾	3	0	3
システム論演習B1	高橋 真吾	3	3	0
システム論演習B2	高橋 真吾	3	0	3
統計科学演習A1	永田 靖	3	3	0
統計科学演習A2	永田 靖	3	0	3
統計科学演習B1	永田 靖	3	3	0
統計科学演習B2	永田 靖	3	0	3
情報数理応用演習A1	平澤 茂一	3	3	0
情報数理応用演習A2	平澤 茂一	3	0	3
情報数理応用演習B1	平澤 茂一	3	3	0
情報数理応用演習B2	平澤 茂一	3	0	3
オペレーションズリサーチ演習A1	森戸 晋, 今泉 淳	3	3	0
オペレーションズリサーチ演習A2	森戸 晋, 今泉 淳	3	0	3
オペレーションズリサーチ演習B1	森戸 晋, 今泉 淳	3	3	0
オペレーションズリサーチ演習B2	森戸 晋, 今泉 淳	3	0	3
管理システム分析演習	片山 博	3	3	3
知識情報処理演習A1	菱山 玲子	3	3	0
知識情報処理演習A2	菱山 玲子	3	0	3
知識情報処理演習B1	菱山 玲子	3	3	0
知識情報処理演習B2	菱山 玲子	3	0	3

建設工学専攻

建設工学は直接・間接に人間の生活基盤をなす諸施設を造り、かつそれを維持向上するという使命を担っている学問分野である。したがってこの分野の技術者には高い次元と広い範囲の工学的判断力が特に要求されることになるので、高度の技術とすぐれた人間性とが調和することが望まれている。ここではそれにふさわしい人材の養成を目指した教育・研究を行っている。この分野は大別して、社会基盤、環境・防災、計画・マネジメントの各部門に分けられる。それぞれが相互にかなり異質の内容を含むところが建設工学専攻の特徴のひとつであるが、それだけに学生は自分の志望と適性をよく考えて、部門ならびにその中のどの研究を選ぶかを慎重に決める必要がある。

建設工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. 指導教員以外の担当教員による演習科目を選択する場合は、指導教員と選択する演習の担当教員の承認を必要とする。
4. 自己が所属する部門の中で指導教員が担当するコア科目は必ず履修しなければならない。

各部門の概要

◆社会基盤部門

社会基盤部門では、建設工学専攻で対象とする各種構造物に関わる諸問題について、理論的ならびに実験的研究を行っている。

構造設計研究では、地上構造物、地下構造物、海洋構造物などの各種土木構造物を対象に、それらの設計および施工に関する諸問題の研究を行っている。

構造力学研究では、構造物の力学的挙動に関し、非線形、座屈・耐荷力、衝撃、弾塑性等の諸問題、複合構造・複合材料の力学などについての研究を行っている。コンクリート工学研究では、コンクリート構造物を対象としてコンクリート部材の力学的挙動や設計法、コンクリートの基礎的物性や耐久性などに関して研究を行っている。

以上は相互に関連があり、さらには他部門まで含めて共同して研究を進める場合もある。

◆環境・防災部門

環境・防災部門では、水圏と地圏における環境と防災に関わる諸問題について、理論的ならびに実験的研究を行っている。

水工学研究では水理学および水文学、特に、開水路の流れの数値解析、流出解析、河川水質の水理解析、都市河川の水問題等について研究を行っている。水環境工学研究では、資源循環と水環境の修復法、用排水の高度処理、バイオバリアーによる環境保全と水質シミュレーション等について研究を行っている。

河川工学研究では、河川水理学、水文学を基礎として、河道の自律形成機能を生かした多自然型川づくりについてや流域の環境・防災に関わる諸問題について、数値解析並びに実験的研究をしている。

土質基礎工学研究と土質力学研究においては、土の静的および動的な特性を解明し解析のためのモデル

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

化および各種条件下における地盤と基礎構造の挙動について研究を行っている。

特に砂地盤については地震時における液状化現象と液状化に起因した構造物被害、および液状化対策工法の研究・開発を行う。また粘土地盤については応力・ひずみ関係を表す構成方程式に関する基礎的な研究に加え、掘削および盛土など地盤工事における地盤の挙動と安全性、地盤に関する環境問題を実験的かつ解析的に研究を行っている。

◆計画・マネジメント部門

近年の都市地域をとりまく社会経済環境の多様な変化のなかにあって、都市計画に関する研究の役割はますます重要となっている。

都市計画研究の領域はきわめて広いが、本部門ではその中でもとりわけ、(1)都市・地域の配置と空間構成および市街地整備、(2)都市交通および都市基盤施設、(3)都市防災、(4)景観計画・デザインを中心に、調査から解析、計画、デザイン、さらには管理・運営に至る計画設計技術に関して、多角的な研究課題を対象としている。また、地域は国内ばかりでなく海外の都市計画も重要な研究対象と位置づけている。研究のアプローチは理論的、手法的な基礎研究はもとより、現実の都市地域を対象とする実際的な、また政策実験等を含む応用研究にも積極的に取り組むものである。

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推薦科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターナン
シップ

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帯

17.レポート・
論文作成

18.成績の表示

19.科目等履修生

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
社会基盤部門	構造設計研究 構造設計研究 構造力学研究 コンクリート工学研究	小泉 淳 清宮 理 依田 照彦 関 博
環境・防災部門	水工学研究 水環境工学研究 河川工学研究 土質力学研究 土質基礎工学研究	鮎川 登 榎原 豊 関根 正人 赤木 寛一 濱田 政則
計画・マネジメント部門	都市計画研究 交通計画研究 景観・デザイン研究	中川 義英 浅野 光行 佐々木 葉

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
社会基盤部門	構造設計研究 構造設計研究 構造力学研究 コンクリート工学研究	小泉 淳 清宮 理 依田 照彦 関 博
環境・防災部門	水工学研究 水環境工学研究 河川工学研究 土質力学研究 土質基礎工学研究	鮎川 登 榎原 豊 関根 正人 赤木 寛一 濱田 政則
計画・マネジメント部門	都市計画研究 交通計画研究 景観・デザイン研究	中川 義英 浅野 光行 佐々木 葉

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推薦科目

8. 隅年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修生

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(II) 講義科目 科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
地中構造特論A	小泉 淳	2	2	0
地中構造特論B	小泉 淳	2	0	2
コンクリート工学特論A	関 博	2	2	0
コンクリート工学特論B	関 博	2	0	2
構造設計特論A	清宮 理	2	2	0
構造設計特論B	清宮 理	2	0	2
構造力学特論A	依田 照彦	2	2	0
構造力学特論B	依田 照彦	2	0	2
都市計画特論A	中川 義英	2	2	0
都市構造特論	中川 義英	2	0	2
交通計画特論	浅野 光行	2	2	0
都市基盤施設特論	浅野 光行	2	0	2
都市防災計画特論	浅野 光行, 吉川 仁	2	0	2
プロジェクト開発特論	浅野 光行, 平本 一雄	2	0	2
土質力学特論A	赤木 寛一	2	2	0
土質力学特論B	赤木 寛一	2	0	2
土質基礎工学特論A	濱田 政則	2	2	0
土質基礎工学特論B	濱田 政則	2	0	2
河川工学特論A	関根 正人	2	2	0
河川工学特論B	関根 正人	2	0	2
水質工学特論A	榎原 豊	2	2	0
水質工学特論B	榎原 豊	2	0	2
水理学特論A	鮎川 登	2	2	0
水理学特論B	鮎川 登	2	0	2
景観・デザイン特論A	佐々木 葉	2	2	0
景観・デザイン特論B	佐々木 葉	2	0	2
バリュー・エンジニアリング	小泉 淳, 黃 逸鴻	2	2	0

19.科目等履修生

(III) 演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
構造設計A演習Ⅰ A	小泉 淳	3	3	0
構造設計A演習Ⅰ B	小泉 淳	3	0	3
構造設計A演習Ⅱ A	小泉 淳	3	3	0
構造設計A演習Ⅱ B	小泉 淳	3	0	3
構造設計B演習Ⅰ A	清宮 理	3	3	0
構造設計B演習Ⅰ B	清宮 理	3	0	3
構造設計B演習Ⅱ A	清宮 理	3	3	0
構造設計B演習Ⅱ B	清宮 理	3	0	3
コンクリート工学演習Ⅰ A	関 博	3	3	0
コンクリート工学演習Ⅰ B	関 博	3	0	3
コンクリート工学演習Ⅱ A	関 博	3	3	0
コンクリート工学演習Ⅱ B	関 博	3	0	3
構造力学演習Ⅰ A	依田 照彦	3	3	0
構造力学演習Ⅰ B	依田 照彦	3	0	3
構造力学演習Ⅱ A	依田 照彦	3	3	0
構造力学演習Ⅱ B	依田 照彦	3	0	3
都市計画A演習Ⅰ A	中川 義英	3	3	0
都市計画A演習Ⅰ B	中川 義英	3	0	3
都市計画A演習Ⅱ A	中川 義英	3	3	0
都市計画A演習Ⅱ B	中川 義英	3	0	3
交通計画演習Ⅰ A	浅野 光行	3	3	0
交通計画演習Ⅰ B	浅野 光行	3	0	3
交通計画演習Ⅱ A	浅野 光行	3	3	0
交通計画演習Ⅱ B	浅野 光行	3	0	3
土質力学演習Ⅰ A	赤木 寛一	3	3	0
土質力学演習Ⅰ B	赤木 寛一	3	0	3
土質力学演習Ⅱ A	赤木 寛一	3	3	0
土質力学演習Ⅱ B	赤木 寛一	3	0	3
土質基礎工学演習Ⅰ A	濱田 政則	3	3	0
土質基礎工学演習Ⅰ B	濱田 政則	3	0	3
土質基礎工学演習Ⅱ A	濱田 政則	3	3	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推薦科目
- 8. 隅年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート・
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目履修性

I 特 徴	学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
				前期	後期
II 沿革と概要	土質基礎工学演習ⅡB	濱田 政則	3	0	3
III 研究科要項	水工学演習ⅠA	鮎川 登	3	3	0
IV 学生生活	水工学演習ⅠB	鮎川 登	3	0	3
V 付 錄	水工学演習ⅡA	鮎川 登	3	3	0
1.履修方法	水工学演習ⅡB	鮎川 登	3	0	3
2.学位	水質工学演習ⅠA	榎原 豊	3	3	0
3.先取り履修	水質工学演習ⅠB	榎原 豊	3	0	3
4.後取り履修	水質工学演習ⅡA	榎原 豊	3	3	0
5.ユニット制度	水質工学演習ⅡB	榎原 豊	3	0	3
6.専修コース制度	河川工学演習ⅠA	関根 正人	3	3	0
7.コア科目 推奨科目	河川工学演習ⅠB	関根 正人	3	0	3
8.隔年講義等	河川工学演習ⅡA	関根 正人	3	3	0
9.演習・実験	河川工学演習ⅡB	関根 正人	3	0	3
10.インターナンシップ	景観・デザイン演習ⅠA	佐々木 葉	3	3	0
11.学費	景観・デザイン演習ⅠB	佐々木 葉	3	0	3
12.共通科目	景観・デザイン演習ⅡA	佐々木 葉	3	3	0
13.専攻別案内	景観・デザイン演習ⅡB	佐々木 葉	3	0	3
建築	都市計画特別実習A	中川 義英	3	3	0
総合機械	都市計画特別実習B	中川 義英	3	0	3
経営					
建設					
地球資源					
14.教職免許					
15.科目登録					
16.授業時間帯					
17.レポート・論文作成					
18.成績の表示					
19.科目等履修生					

地球・環境資源理工学専攻

地球・環境資源理工学専攻では、主に環境問題・資源問題及び地球科学に係わる教育・研究を行っている。その内容は、大気・水・土壤に関する環境問題、環境調和型リサイクリング、廃棄物の処理・適正処分・管理、新素材開発、海洋や地熱を含めた天然資源開発と地下空間利用、資源開発における作業・自然環境保全、各種資源の自然界における存在状態の把握、地殻環境保全、自然災害の予測・防災、遺跡など文化財の保存、地質学・古生物学・岩石学・鉱物学などの基礎科学分野に至るまで、広範囲にわたっている。

個別の専門性を高めるとともに、幅広い専門知識を身につけ、環境問題・資源問題にグローバルな視点から対応できる人材の育成を目指している。

地球・環境資源理工学専攻には、以下の8研究部門が設置されている。

地球・環境資源理工学専攻履修方法

- 所属する部門のコア科目を、規定に基づいて履修すること。
- 指導教員が担当する演習科目は、在学年度において必ず履修しなければならない。
- 演習科目は、13単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。

各部門の概要

◆環境保全工学部門

本研究部門には、環境安全工学研究と大気水圏環境化学研究がある。環境安全工学研究では、粉じん、アスベスト、ベンゼン等の化学物質等、大気環境、作業環境、室内環境に関連した有害因子の計測と評価およびその対策について研究している。大気水圏環境化学研究では、大気化学、水質化学、分析化学、地球化学、気象学、森林生態学、土壤学などを学問的基盤とし、大気・水・森林をキーワードにフィールドワークを中心として研究を行っている。

◆資源循環工学部門

天然資源や廃棄物資源の有効活用には、有用成分と不用（有害）成分の分離等、各種処理の高効率化が不可欠である。こうした分離を中心とする処理技術の高度化をベースとして、資源全体の流れの最適化と、資源利用における環境負荷の最小化（環境調和型資源リサイクリング）を達成することが本部門のテーマである。

◆素材プロセス工学部門

金属素材をはじめとする各種の機能素材製造プロセスにおいて、“熱力学”、“電気化学”や“量子化学”的な手法を用いて、プロセスの物理化学的な解析と目的に研究を行っている。コンピュータによるシミュレーションも行なっている。具体的には、チタンの新製造プロセス開発、電気化学的手法による化合物半導体作成、非鉄金属製錬物性測定、量子化学による環境物質の解明などを研究している。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 履修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修性

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

◆開発環境工学部門

環境破壊を最小にするには、クリーンなエネルギーを使用することが必要である。本部門は、石油、二酸化炭素排出量の少ない天然ガス、再生可能な地熱、メタンハイドレートの開発などの研究を行っている。さらにこうした化石燃料から発生する二酸化炭素の地下固定、原子力エネルギーがもたらす放射性物質の地下処理法を研究している。

◆地殻情報工学部門

天然資源の効率的な利用や地殻環境保全のためには、地殻環境の実態の解明と継続的なモニタリングが必要である。天然資源の発見・開発、地殻変動、土木・建設部門の地盤と地震防災問題、廃棄物の地層処分や二酸化炭素の地中固定、地下水・土壤汚染をはじめとする地盤環境問題の研究を行っている。

1.履修方法

2.学位

3.先取り履修

4.後取り履修

5.ユニット制度

6.専修コース制度

7.コア科目
推薦科目

8.隔年講義等

9.演習・実験

10.インターネット

11.学費

12.共通科目

13.専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14.教職免許

15.科目登録

16.授業時間帯

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.科目等履修

◆資源科学部門

資源の探査・開発、鉱物資源の処理・加工に関連した鉱物や岩石についての基礎研究を行っている。また、岩石学・鉱物学の応用として、石造文化財をはじめとする石材の劣化機構の解明と劣化評価法に関する研究、未利用原料鉱物や産業廃棄物・副次生成物の改質と新規素材化に関する研究を行っている。

◆岩石学部門

岩石学、同位体地球化学の2分野から構成され、超高压変成岩やダイヤモンドの形成メカニズムを中心とした地球深部での物質の進化過程と流体環境の解明、隕石中の鉱物の同位体組成に基づく惑星や太陽系の起源物質とその進化過程の解明などの研究を行っている。

◆地質学部門

構造地質学、構造岩石学、古生物学の3分野から構成され、堆積盆地の環境・古地理・変遷およびその後の変動過程を解明する研究、断層帯の岩石から断層の運動学的解析、形成過程、形成時期の解明、中央構造線および西南日本の構造発達史とテクトニクスの研究、中生代軟体動物の進化、中生代の環境変動の復元、進化古生物学と古環境科学、化石層序学、新しい地質年代尺度の確立などに関する研究を行っている。

(I) 研究指導

(修士課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
環境保全工学部門	環境安全工学研究 大気水圏環境化学研究	名古屋 俊士 大河内 博
資源循環工学部門	資源循環工学研究	大和田 秀二
素材プロセス工学部門	素材プロセス工学研究	不破 章雄
開発環境工学部門	石油工学研究 岩盤・石油生産工学研究	在原 典男 森田 信男
地殻情報工学部門	防災探査工学研究 地圏環境学研究	毎熊 輝記 香村 一夫
資源科学部門	資源地球化学研究 鉱床地質学研究 応用鉱物学研究 鉱物物理化学研究	内田 悅生 円城寺 守 山崎 淳司 小川 誠
岩石学部門	岩石学研究 同位体地球化学研究 構造地質学研究	小笠原 義秀 フェイガン ティモシー (未定)
地質学部門	古生物学研究 構造岩石学研究	平野 弘道 高木 秀雄

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 履修方法

2. 学位

3. 先取り履修

4. 後取り履修

5. ユニット制度

6. 専修コース制度

7. コア科目
推薦科目

8. 隔年講義等

9. 演習・実験

10. インターン
シップ

11. 学費

12. 共通科目

13. 専攻別案内

建築

総合機械

経営

建設

地球資源

14. 教職免許

15. 科目登録

16. 授業時間帯

17. レポート、
論文作成

18. 成績の表示

19. 科目履修性

(博士後期課程)

部 門	研 究 指 導	担 当 教 員
環境保全工学部門	環境安全工学研究 大気水圏環境化学研究	名古屋 俊士 大河内 博
資源循環工学部門	資源循環工学研究	大和田 秀二
素材プロセス工学部門	素材プロセス工学研究	不破 章雄
開発環境工学部門	石油工学研究 岩盤・石油生産工学研究	在原 典男 森田 信男
地殻情報工学部門	防災探査工学研究 地圏環境学研究	毎熊 輝記 香村 一夫
資源科学部門	資源地球化学研究 鉱床地質学研究 応用鉱物学研究 鉱物物理化学研究	内田 悅生 円城寺 守 山崎 淳司 小川 誠
岩石学部門	岩石学研究 同位体地球化学研究 構造地質学研究	小笠原 義秀 フェイガン ティモシー (未定)
地質学部門	古生物学研究 構造岩石学研究	平野 弘道 高木 秀雄

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推奨科目
8. 隔年講義等
9. 演習・実験
10. インターンシップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 科目選択

(II) 講義科目　科目の前に付した△印は隔年講義、※印は本年度休講を示す。

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
鉱床地質学特論	円城寺 守	2	2	0
△地球環境の変遷と資源	加藤 泰浩	2	2	0
※△素材物質科学特論	山崎 淳司	2	2	0
△応用鉱物学特論	山崎 淳司	2	2	0
※△鉱物物理化学特論	小川 誠	2	2	0
△粘土鉱物学特論	小川 誠	2	2	0
※△ジオマテリアル・サイエンス	鈴木 滋	2	0	2
資源探査工学	斎藤 章	2	2	0
資源地球化学特論	内田 悅生	2	2	0
※△数値岩盤工学特論	森田 信男	2	2	0
△石油生産工学特論	森田 信男	2	2	0
△油層工学特論	栗原 正典	2	2	0
△資源リサイクリング	大和田 秀二	2	0	2
※△資源分離工学特論	大和田 秀二	2	0	2
※△高度粉碎技術特論	斎藤 文良	2	0	2
環境地球工学A	小出 仁	2	0	2
環境地球工学B	小出 仁	2	0	2
※△石炭原料工学	(未定)	2	2	0
△地質統計学	在原 典男	2	2	0
※△地殻環境流体工学	在原 典男	2	0	2
※△天然ガス工学	佐藤 光三	2	2	0
△粉塵工学	名古屋 俊士	2	0	2
※△環境安全工学	名古屋 俊士	2	0	2
△土壤浄化工学	白鳥 寿一	2	0	2
※△生態環境学	大河内 博	2	0	2
△水質化学特論	大河内 博	2	0	2
※△環境微生物学	片山 葉子	2	0	2
※ 付加体の堆積学・構造地質学	(未定)	2	0	2
※ 堆積学特論	(未定)	2	0	2
△白亜紀化石分帶特論	平野 弘道	2	2	0
※△古生物学特論	平野 弘道	2	2	0

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
※△防災探査工学	每熊 輝記	2	2	0
△地震探査工学	每熊 輝記	2	2	0
地圈環境工学	香村 一夫	2	0	2
△岩石熱力学特論	小笠原 義秀	2	2	0
※△超高压岩石学特論	小笠原 義秀	2	2	0
地球テクトニクス	山野 誠	2	0	2
※△地史学特論	平野 弘道	2	2	0
地球化学	松久 幸敬	2	2	0
同位体地球化学	松久 幸敬	2	0	2
海洋科学	徳山 英一	2	2	0
海洋底ダイナミックス	徳山 英一	2	0	2
△断層の解剖	高木 秀雄	2	2	0
※△構造岩石学	高木 秀雄	2	2	0
同位体地球化学特論	フェイガン ティモシー	2	0	2
※△素材工学特論	不破 章雄	2	2	0
△素材プロセス工学特論	不破 章雄	2	0	2
分離工学物理化学特論	不破 章雄	2	0	2

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制度
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推薦科目
- 8. 隅年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート・
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目履修生

(III) 演習科目

I 特 徴	学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
				前期	後期
II 沿革と概要	資源地球化学演習A	内田 悅生	3	3	0
III 研究科要項	資源地球化学演習B	内田 悅生	3	0	3
IV 学生生活	資源地球化学演習C	内田 悅生	3	3	0
V 付 錄	資源地球化学演習D	内田 悅生	3	0	3
1.履修方法	応用鉱物学演習A	山崎 淳司	3	3	0
2.学位	応用鉱物学演習B	山崎 淳司	3	0	3
3.先取り履修	応用鉱物学演習C	山崎 淳司	3	3	0
4.後取り履修	応用鉱物学演習D	山崎 淳司	3	3	0
5.ユニット制度	鉱床地質学演習A	円城寺 守	3	3	0
6.専修コース制度	鉱床地質学演習B	円城寺 守	3	0	3
7.コア科目 推奨科目	鉱床地質学演習C	円城寺 守	3	3	0
8.隔年講義等	鉱床地質学演習D	円城寺 守	3	0	3
9.演習・実験	鉱物物理化学演習A	小川 誠	3	3	0
10.インターナンシップ	鉱物物理化学演習B	小川 誠	3	3	0
11.学費	鉱物物理化学演習C	小川 誠	3	3	0
12.共通科目	鉱物物理化学演習D	小川 誠	3	3	0
13.専攻別案内	岩盤・石油生産工学演習A	森田 信男	3	3	0
建築	岩盤・石油生産工学演習B	森田 信男	3	0	3
総合機械	岩盤・石油生産工学演習C	森田 信男	3	3	0
経営	岩盤・石油生産工学演習D	森田 信男	3	0	3
建設	防災探査工学演習A	毎熊 輝記	3	3	0
地球資源	防災探査工学演習B	毎熊 輝記	3	0	3
14.教職免許	防災探査工学演習C	毎熊 輝記	3	3	0
15.科目登録	防災探査工学演習D	毎熊 輝記	3	0	3
16.授業時間帯	地圏環境学演習A	香村 一夫	3	3	0
17.レポート・論文作成	地圏環境学演習B	香村 一夫	3	0	3
18.成績の表示	地圏環境学演習C	香村 一夫	3	3	0
19.科目履修生	地圏環境学演習D	香村 一夫	3	0	3
	資源循環工学A演習A	大和田 秀二	3	3	0
	資源循環工学A演習B	大和田 秀二	3	0	3
	資源循環工学A演習C	大和田 秀二	3	3	0
	資源循環工学A演習D	大和田 秀二	3	0	3
	素材プロセス工学演習A	不破 章雄	3	3	0
	素材プロセス工学演習B	不破 章雄	3	0	3

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目 推薦科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
建築
総合機械
経営
建設
地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート、 論文作成
18. 成績の表示
19. 科目履修生

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			前期	後期
素材プロセス工学演習C	不破 章雄	3	3	0
素材プロセス工学演習D	不破 章雄	3	0	3
石油工学演習A	在原 典男	3	3	0
石油工学演習B	在原 典男	3	0	3
石油工学演習C	在原 典男	3	3	0
石油工学演習D	在原 典男	3	0	3
環境安全工学演習A	名古屋 俊士	3	3	0
環境安全工学演習B	名古屋 俊士	3	0	3
環境安全工学演習C	名古屋 俊士	3	3	0
環境安全工学演習D	名古屋 俊士	3	0	3
大気水圏環境化学演習A	大河内 博	3	3	0
大気水圏環境化学演習B	大河内 博	3	0	3
大気水圏環境化学演習C	大河内 博	3	3	0
大気水圏環境化学演習D	大河内 博	3	0	3
構造地質学演習A	(未定)	3	3	0
構造地質学演習B	(未定)	3	0	3
構造地質学演習C	(未定)	3	3	0
構造地質学演習D	(未定)	3	0	3
古生物学演習A	平野 弘道	3	3	0
古生物学演習B	平野 弘道	3	0	3
古生物学演習C	平野 弘道	3	3	0
古生物学演習D	平野 弘道	3	0	3
岩石学演習A	小笠原 義秀	3	3	0
岩石学演習B	小笠原 義秀	3	0	3
岩石学演習C	小笠原 義秀	3	3	0
岩石学演習D	小笠原 義秀	3	0	3
構造岩石学演習A	高木 秀雄	3	3	0
構造岩石学演習B	高木 秀雄	3	0	3
構造岩石学演習C	高木 秀雄	3	3	0
構造岩石学演習D	高木 秀雄	3	0	3
同位体地球化学演習A	フェイガン ティモシー	3	3	0
同位体地球化学演習B	フェイガン ティモシー	3	0	3
同位体地球化学演習C	フェイガン ティモシー	3	3	0
同位体地球化学演習D	フェイガン ティモシー	3	0	3

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

14 教員免許状の取得方法

(1) 創造理工学研究科で取得できる教員免許状の種類および免許教科

免許状の種類

高等学校教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状

免許教科

理科、工業、情報

(2) 専修免許状の取得方法

専 攻	取得できる教科
建築学専攻	理科
総合機械工学専攻	理科
経営システム工学専攻	情報(高校のみ)、工業(高校のみ)
建設工学専攻	理科
地球・環境資源理工学専攻	理科

【基礎資格】

- ・修士の学位を有すること
 - ・大学の専攻科または文部大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上を修得すること。
 - ・本研究科入学以前に一種免許状を取得していること。または本研究科在学中に教育職員免許法第5条別表第1の所定単位を履修し取得条件をみたすこと。なお、取得できる教科については、一種免許状と同じものである。
- ※ 1 教育職員免許法第5条別表第1に規定する高等学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状の授与を受ける場合の「教科に関する専門教育科目」の単位の修得方法は、理科・数学・工業・情報それぞれの教科に関する専門教育科目を24単位以上修得するものとする。
- ※ 2 ※ 1にいう「教科に関する専門教育科目」については事務所の一覧表にて各自確認し、単位修得に誤りのないよう十分注意すること。また、学部時代に取得した先取履修科目については、これに含めることができない。

(3) 免許状の申請

原則として本人が授与権者（居住地の都道府県教育委員会）に対して行う。ただし3月の修了時に限り、教育職員免許状を必要とする学生のために、大学が各人の申請を取りまとめて申請を代行（一括申請）し、学位授与式当日手渡せるようとりはからっている。

その手続については、7月に免許状一括申請の登録、11月下旬に宣誓・署名・捺印および申請料金の納入の手続を行うので、掲示及びメールでの連絡等に十分注意すること。期限遅れ等により一括審査を受けられなかった場合は、個人で申請することになる。

〈注意〉 一種免許状を取得しておらず、今年度より教職課程の聴講を希望する者は、出身学部の科目等履修生となった上で、教職課程の科目を聴講することになる。詳細については、理工学統合事務所および出身学部事務所に問い合わせること。

15 履修科目の登録

(1) 選択・届出

学生は、指定された科目登録手続き期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本研究科要項とWebシラバス等を熟読して、各自の学習目標を定め、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

Webシラバス <https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。なお、必ず登録の結果を確認すること。

16 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00 ↓ 10:30	10:40 ↓ 12:10	13:00 ↓ 14:30	14:40 ↓ 16:10	16:20 ↓ 17:50	18:00 ↓ 19:30	19:40 ↓ 21:10

17 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物、ウェブ・サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合、「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為とみなされ、処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は、引用箇所を「　」等で明示し、出典（著者名、タイトル、該当ページ、出版社、出版年、ウェブ・サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし、引用の分量が多くなる場合は、「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので、必要最小限にとどめること。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 履修方法
2. 学位
3. 先取り履修
4. 後取り履修
5. ユニット制度
6. 専修コース制度
7. コア科目
推奨科目
8. 隅年講義等
9. 演習・実験
10. インターン
シップ
11. 学費
12. 共通科目
13. 専攻別案内
- 建築
- 総合機械
- 経営
- 建設
- 地球資源
14. 教職免許
15. 科目登録
16. 授業時間帯
17. レポート・
論文作成
18. 成績の表示
19. 科目選択生

18 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日にWaseda-netポータル上で発表される。成績発表日については理工学統合事務所ホームページで確認すること。

講義科目・演習科目・修士論文の成績表記はA+・A・B・C・Fをもって表示し、A+～Cを合格、Fを不合格とする。研究指導の成績表記はPとQをもって表示し、Pを合格、Qを不合格とする。なお、成績発表の際にはこのほかにH・*という記号を使用する。

H……成績保留を意味する。担当教員から課題などを発表してもらえる場合があるので、掲示や教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに年度を越えた場合には自動的にF評価となる。

*……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A+	A	B	C	F	H
点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～	
成績証明書		A	B	C	表 示 な し	
判 定			合 格		不 合 格	

19 科目等履修生

科目等履修生には官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく委託履修生と、それ以外の一般履修生がある。科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。ただし、委託履修生は事情により学期の中途においても入学を許可することがある（外国学生の一般履修生は4月入学のみ）。一般履修生の在学期間は1年間であり、引き続き科目等履修生として入学を志願する場合には改めて願い出なければならない。

①科目等の履修および単位について

委託履修生および一般履修生は、正規の学生の修学の妨げにならない限り授業科目および特定課題についての研究指導を受けることができる。

なお、履修できる授業科目の制限単位は次のとおりである。

1. 授業科目のみの場合 20単位
2. 授業科目および研究指導をあわせて履修する場合 10単位

修士課程に正規生として入学した場合は、単位振替願を提出することによって、履修生として取得した単位のうち通常6単位、最高10単位までを修士課程修了単位数に振り替えることができる。

②学費について

	本学卒業生および 本学大学院修了者	左記以外
入学金	免除	70,000円
履修料 1単位につき		43,100円
研究指導料	修士課程	215,500円(前期)・215,500円(後期)
	博士後期課程	166,750円(前期)・166,750円(後期)
実験演習料	実験をともなう場合にのみ必要	

※研究指導および演習科目履修者に対しては、実験演習料を徴収する。

※次の者は選考料（25,000円）および入学金を免除する。

- イ. 本学大学院正規学生であった者で、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された者。
- . 前項の規定により科目等履修生となった者で次年度以降も引き続き科目等履修生として入学を志願し、許可された者。
- ハ. (イ) の規定によらない履修生で、引き続き履修生として入学を志願し許可された場合には、2年間に限り免除とする。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 履修方法
- 2. 学位
- 3. 先取り履修
- 4. 後取り履修
- 5. ユニット制
- 6. 専修コース制度
- 7. コア科目
推奨科目
- 8. 隅年講義等
- 9. 演習・実験
- 10. インターン
シップ
- 11. 学費
- 12. 共通科目
- 13. 専攻別案内
- 建築**
- 総合機械
- 経営**
- 建設**
- 地球資源
- 14. 教職免許
- 15. 科目登録
- 16. 授業時間帯
- 17. レポート、
論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 科目専修生

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

学生生活

1 学生の手帖 (Compass)	1. 学生の手帖
2 理工学術院および創造理工学研究科ホームページ	2. ホームページ
3 学籍番号	3. 学籍番号
4 学生相談	4. 学生相談
5 就職	5. 就職
6 学生証	6. 学生証
7 各種証明書類の交付	7. 証明書交付
8 各種願・届の提出	8. 各種願提出
9 奨学金制度	9. 奨学金
10 揭示	10. 揭示
11 教室・共通ゼミ室の使用	11. 教室の使用
12 学生の課外活動	12. 課外活動
13 安全管理	13. 安全管理
14 海外留学等	14. 海外留学
15 理工リエゾンオフィス	15. 理工リエゾンオフィス
16 禁煙キャンパス	16. 禁煙キャンパス
17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	17. 自転車禁止
18 理工学図書館・学生読書室	18. 図書館・読書室
19 コンピュータ・ルーム	19. コンピュータ・ルーム
20 総合健康教育センター大久保分室	20. 総合健康教育センター
21 交通機関のストライキと授業	21. 交通機関の影響
22 天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて	22. 天候悪化の影響

1 学生の手帖Compass

この研究科要項とは別に、「学生の手帖Compass」が交付される。本研究科要項が創造理工学研究科における学修を中心に編集されているのに対し、「学生の手帖Compass」は、早稲田大学における学生生活を中心に編集されている。研究科要項と共に活用してもらいたい。

2 理工学術院および創造理工学研究科ホームページ

本学術院および本研究科ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各専攻からの案内、各種申請手続きや日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。
<http://www.sci.waseda.ac.jp>

3 学籍番号

本研究科は、学生個人について入学時に学籍番号を定めている。この学籍番号は、修士課程、博士後期課程別になっており、それぞれの在学期間を通じて変更はない。

最初の2桁52は創造理工学研究科、次の2桁は入学年度（西暦下2桁）、次の1桁（アルファベット）は専攻別、最後の3桁は所属専攻内における学生の番号を示す。

なお、学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称CD）1桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

	修士課程	博士後期課程
建築学専攻	5208A001～	5208A501～
総合機械工学専攻	5208B001～	5208B501～
経営システム工学専攻	5208C001～	5208C501～
建設工学専攻	5208D001～	5208D501～
地球・環境資源理工学専攻	5208E001～	5208E501～

4 学生相談

(1) 理工学統合事務所

科目登録・授業・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じている。また、遺失物や拾得物の管理も行っているので、これらに関する質問があれば隨時相談すること。

事務取扱時間・休業日

月～土曜日 9時～17時（ただし土曜日および授業休止期間中の12時30分～13時30分の間は閉室）

休業日 日曜日・国民の祝日・創立記念日（10月21日）・年末年始・夏季一斉休業期間および夏季冬季休業中の土曜日

（注）夏季休業・冬季休業等の期間中は、事務処理が平常時より時間がかかる場合があるので留意すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. インターリン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 諸書室
19. コピーカー ルーム
20. 総合健康 調査センター
21. 交通機関 の影響
22. 天候悪化 の影響

(2) 非常勤講師への連絡方法

本学部では非常勤講師の連絡先（住所・電話番号等）を公表していないので、非常勤講師への連絡は、必要な書類・手紙等を封筒に入れ、宛名・差出人住所・氏名等を明記のうえ、切手を貼り、封をしたものをお教員室（51号館2階）へ持参すること。

※専任教員の連絡先はシラバスやホームページで確認できる。

(3) ハラスメント防止委員会室

性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどの被害を受けた学生・生徒および教職員等が、安心してハラスメントの苦情を申し立て、相談を受け付けられる窓口を設置している。ハラスメントの苦情に対しては、学内での適切な調査と慎重な手続を経たうえで、厳正な処分を含む効果的な対応をし、その際、関係者（事案の当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、当該事案に利害関係を有する者を含む）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意している。

- 1. 学生の手帳
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. 学生相談
- 5. 就職
- 6. 学生証
- 7. 証明書交付
- 8. 各種願提出
- 9. 奨学金
- 10. 掲 示
- 11. 教室の使用
- 12. 課外活動
- 13. 安全管理
- 14. 海外留学
- 15. 在エリソン オフィス
- 16. 禁煙 キャンパス
- 17. 自転車禁止
- 18. 図書館・ 読書室
- 19. コピーグ ルーム
- 20. 総合健康 研究センター
- 21. 交通機関 の影響
- 22. 天候悪化 の影響

早稲田大学はハラスメント防止に真摯に取り組んでいます。

もう一歩先のハラスメント理解のためのQ & A

〈解説〉

Q ハラスメントって何ですか？

A ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与える、あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントって何で問題なのですか？

A 人権侵害だからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として、日常生活に支障をきたすケースも少なくありません。自分に置き換えて、問題意識を高く持つことが大切です。そのためにも正しい知識、理解が求められます。ハラスメント防止委員会では、「ハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、対応を定めるとともに、パンフレットやWebサイトで様々な情報を提供しています。是非活用してください。

ハラスメント防止委員会URL

<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

Q 学生がハラスメントにあうのは、どんな場面ですか？

A きわめて残念なことですが、授業・ゼミ等がアカデミック・ハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの場、サークル等がセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントの場になります。

Q 学生が加害者になることもありますか？

A はい、あります。たとえばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり、飲酒を強要したり、交際をしつこく迫った結果、相手が不快感を持った場合には、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントになります。

〈相談〉

Q ハラスメントをうけた場合、どこに相談すればいいのでしょうか？

A ハラスメント防止委員会に相談してください。

Q ハラスメント防止委員会では何をしてもらえるのですか？

A 現状について専門の相談員が詳細をうかがいます。かなりのケースが、この段階で気持ちに整理がつき、解決にいたっています。相手との関係について調整を希望する場合は、【対応策の検討】に進みます。その後、ハラスメント防止委員会の苦情処理案件の対象と認定された場合は、当事者からあらためてお話を伺い、相手方との調整が始まります。秘密堅持と被害者への報復等の禁止が明確に定められているので、安心して相談してください。また、外部の相談窓口もWebサイトで紹介しています。

Q ハラスメントなのかわからないのですが、相談してもよいでしょうか？我慢しようか悩んでいます。

A ハラスメントかどうかについて、感情には個人差があるので人によってはハラスメントと感じないようなケースでも、本人の主観的な感情が重要な要素になります。まずは、ハラスメント防止委員会に相談してください。

Q 友人から相談されているのですが？

A 友人に相談されたら、まずは真剣に耳を傾けて下さい。そして、適切な対処のために、ハラスメント防止委員会などの専門窓口へ相談するよう勧めてください。

■相談窓口 ハラスメント防止委員会

相談は、電話・メール・Fax・手紙などの方法でも承ります。来室前なら匿名での相談も可能です。来室の際は必ず電話で予約をしてください。

【TEL】03-5286-9824 【FAX】03-5286-9825

【E-mail】stop@list.waseda.jp

【URL】<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

【開室時間】月～金 9:00～17:00

土 9:00～14:00

【事務所所在地】〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 24-8号館2階

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. 学生相談

5. 就職

6. 学生証

7. 証明書交付

8. 各種願提出

9. 奨学金

10. 掲示

11. 教室の使用

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. インターン

オフィス

16. 禁煙

キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・

読書室

19. コピーラム

20. 総合健康

センター

21. 交通機関

の影響

22. 天候悪化

の影響

5 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募制」と「推薦制」の2種類がある。「自由応募制」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦制」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（大学院・専攻等）が推薦を行う制度である。企業が専攻や推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（大学院・専攻等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には調整等を行った上で、被推薦者を決定することとなる。詳細は各専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各専攻では、修了予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。

学生は就職内定状況等、現在の活動状況を担当教員に報告すること。

(3) 各種行事案内

キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就職講座、理工学術院が主催する国家公務員説明会等の各種行事を、各専攻掲示板および正門掲示板（学生支援掲示板）およびホームページにおいて案内している。

(4) 就職資料室等の利用

- ① 理工系の「求人票」および企業案内等の諸資料は、51号館2階学生ラウンジ内の「就職資料室」および各専攻連絡事務室または各専攻の就職資料室に配架している。
- ② 学生ラウンジ内の就職資料室では、求人情報（文系就職中心）、Uターン・Iターン情報、各企業や官公庁の資料の他に業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にある資源・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ **キャリアガイダンス**（就職環境を知り、充実した学生生活を過ごすためのヒントを説明）
- ・ **キャリア講座**（キャリアの専門家が、社会とキャリア設計の関係等について講義）
- ・ **その他キャリア形成支援イベント**（公務員・教員キックオフガイダンス、OB・OG等現役社会人との交流イベント他）
- ・ **就職支援イベント**（就職ガイダンス、業界研究講座、マナーセミナー、就活ミニセミナー他）
- ・ **企業・求人情報の提供**（Waseda-netポータル内【キャリアコンパス】より）
- ・ **インターンシップの紹介および関連セミナー**
- ・ **個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細は、年度毎に配付される『CAREER GUIDEBOOK』およびキャリアセンターホームページを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス30号館 学生会館3階

【時間】 平日9:00～18:00

土曜9：00～17：00

【TEL】 03-3203-4332

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 <http://www.waseda.jp/career/>

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

6 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日（または9月21日）から翌年3月31日（または9月20日）までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

1年次の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年次以上については、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学統合事務所に申し出ること。

(2) 紛 失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学統合事務所で再交付の手続きをすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真を添付した所定の「再交付願」を理工学統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提 示

図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割・通学証明書の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失 効

修了または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学統合事務所へ返却すること。

7 各種証明書類の交付

本研究科で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、充分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通200円（修了者がその修了日の属する月末までに申請した証明書を含む）

修了者、退学者等に関わる証明書 1通300円

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 運動会
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・
読書室
19. コピーカー
ルーム
20. 総合健康
教育センター
21. 交通機関
の影響
22. 天候変化
の影響

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(2) 発行方法

- ① 自動証明書発行機（事務所内に設置）を利用する場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は入学手続時に届出た4桁の番号を使用すること。

- ② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書交付願」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在 学 証 明 書	教員免許状取得見込証明書
★成 績 証 明 書	教員免許状単位取得証明書
★卒業（修了）見込証明書	進 学 調 査 書
卒 業 （ 修 了 ） 証 明 書	★英 文 在 学 証 明 書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英 文 成 績 証 明 書
成 績 ・ 卒 業 証 明 書	★英文卒業（修了）見込証明書
退 学 証 明 書	英文卒業（修了）証明書
学 位 取 得 証 明 書	そ の 他 証 明 書

(3) 学割

自動証明書発行機（事務所内に設置）で1人年間10枚まで無料で発行可能。

8 各種願・届の提出

在学中、本人または保証人に何らかの異動や事故等があった場合には、必ずその事項についての所定の願または届を提出しなければならない。各種願・届用紙は理工学統合事務所で入手できる。

(1) 休学願

- ① 休学の条件

病気その他の正当な理由により、引き続き2ヶ月以上授業（試験を含む）に出席することができない者は、研究科所定の申請手続きに基づき、研究科長の許可を得て、休学することができる。「休学願」にクラス担任または指導教員の所見を記入してもらい、各学期の提出期日までに理工学統合事務所に提出すること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復学日	休学年数
前 期	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
後 期	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

- ② 休学期間

休学は前期休学あるいは後期休学の2種類とし、当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は連続して2年を超えることはできない。休学中は在学年数に算入しない。前後期継続休学または後期から次年度前期継続休学を希望する者は復学手続き時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して修士課程2年、博士後期課程3年を超えることはできない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなる。

前期休学願		金額	後期休学願		金額
4月30日まで	休学中 在籍料	5万円	6月30日から 10月31日まで	休学中 在籍料	5万円
5月1日から 5月31日まで	授業料 実験演習料 施設費	所定学期 の全額	11月1日から 11月30日まで	授業料 実験演習料 施設費	所定学期 の全額

※入学と同時に前期を休学する場合は、学費の減額はありません。

(2) 留学願

- ① 外国の大学等高等教育機関に4ヶ月以上在籍し、教育または研究等に従事する場合、研究科所定の申請手続に基づき、研究科長の許可を得て、「留学」とすることができる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 本学で主催する一部の留学プログラムを除いては、留学期間中は在学年数に算入しない。ただし、修士課程において、単位認定により通算2年間で卒業可能な場合のみ在学年数に算入することができる。詳細は理工学統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。

(3) 復学願

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続きが必要とされる時期に、理工学統合事務所からその手続きに関する書類を保証人宛に送付するので、これに従って手続きを行うこと。
- ② 復学は学期始めに限られる。
- ③ 復学後、修士課程での在籍年数（休学・留学期間含む）が3年以上だが、在学年数（休学・留学期間除く）が2年未満となる学生は、在学年数が2年に達するまで、当該年度2年度生の学費額を徴収する。

同様に、博士後期課程での在籍年数（休学・留学期間含む）が4年以上だが、在学年数（休学・留学期間除く）が3年未満となる学生は、在学年数が3年に達するまで、当該年度3年度生の学費額を徴収する。

このことについて、「III-11 学費の納入と抹籍」を参照すること。

(4) 退学願

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学統合事務所へ申し出ること。
 - ② 学期の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
- 詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学

正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年から起算して、修士課程は4年度まで、博士後期課程は5年度までの間に限り、学年の始めにおいて選考の上、許可することができる。詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

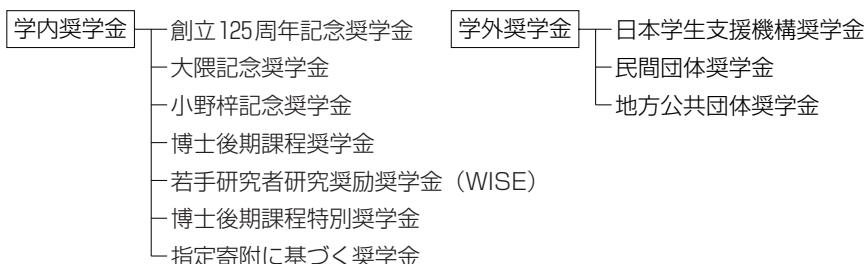
1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 記明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 運動会
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーカーラム
20. 総合健康 預セセター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

(6) 氏名・住所・保証人等変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちにWaseda-netポータルのProfile画面から登録を行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、大学に届けてあるメールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保証人または学費支払者の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに理工学統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本を添付のうえ、届け出ること。
- ④ 死亡その他の理由で保証人を変更する場合は、直ちに新しい保証人を届け出ること。

9 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。また、奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。貸与奨学金の代表的なもの一つは、日本学生支援機構奨学金（第一種・二種）である。



奨学金に出願する場合は、毎年理工学統合事務所にて配布する「奨学金情報冊子Challenge」を入手し、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること。（一部の奨学金を除く）

その他の奨学金の募集等があった場合は、随時、正門掲示板（学生支援掲示板）、および理工学統合事務所ホームページに掲示する。各専攻における独自の奨学金に関しては、専攻からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、校友会給付緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・災害採用等が適用される場合がある。

外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、学年始めに「外国人留学生奨学金登録票」を提出し、留学生奨学金用の掲示にて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

10 揭示

立看板の取扱いおよび掲示板使用等に関する運用ルール

(1) キャンパス内の立看板、掲示物ならびにビラ等については、以下の事項を厳守すること。

- ① 必須記載事項

大学に届出のあるサークル等学生団体：団体名を明記すること。

大学に届出のないサークル等学生団体：団体名および設置責任者である本学学生の所属箇所、学年、氏名を明記すること。

② 虚偽の宣伝、他者のプライバシーの侵害や名誉毀損を行ってはならない。

③ 上記事項に違反するものについては、事前の通知なく撤去がある。また、違反があった場合は、当該団体による立看板掲出、掲示ならびにビラの配布を以後許可しないことがある。

(2) 立看板について

原則として大久保キャンパス内のサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。

(3) 掲示物について

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

① 理工学統合事務所に申し出で承認を受けること。

② 掲示の期限は、承認の日から3週間以内とする。

③ 掲示用紙の大きさと枚数は次のとおりとする。

正門脇掲示板：縦55センチ・横45センチ（新聞紙1頁大）以内、1枚

各号館内掲示板：縦40センチ・横27センチ（新聞紙半頁大）以内、2枚以内

④ 掲示物の掲示板への貼付けは画鋲を使用すること。画鋲が使用できない掲示板は粘着性の弱い紙テープを使用すること。

⑤ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。

(4) ビラ等の配布について

キャンパス内でビラ等を配布する場合は、次の事項を厳守すること。

① 業者（アルバイト等）の宣伝等営利目的のチラシ等の配布は認めない。

② ビラ等の配布は、手渡しのみに限る。受け取る意思のない人への強要は行わないこと。教室内の机の上に置く行為は授業の妨げとなるため、認めない。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. 学生相談

5. 就職

6. 学生証

7. 記明書交付

8. 各種願提出

9. 奨学金

10. 掲 示

11. 教室の使用

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. エリエイン
オフィス

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コピーラム

20. 総合健康
相談センター

21. 交通機関
の影響

22. 天候悪化
の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. エリエゾン オフィス
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーラーム
20. 総合健康 痞セントー
21. 交通機関 の影響
22. 天候悪化 の影響

掲示板一覧

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント
	入試掲示板	入試情報
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ インターンシップ情報 イベント情報
	学部大学院共通掲示板	学部暦・大学院暦 他箇所関係（オープン教育、教職、MNC他） 科目登録・成績発表情報 休講情報 レポート 試験情報
	基幹掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
	授業時間割	時間割の最新情報
	教室変更	授業開始後の教室変更
53号館1階	創造掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
54号館1階	先進掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
56号館1階	実験掲示板	理工学基礎実験、応用物理学実験等の情報
57号館2階	理工公認サークル掲示板	理工公認サークル 告知スペース
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース、就職資料
51号館裏掲示板	サークル掲示板	学内外のサークルチラシ
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 学部暦、大学院暦 講演会案内

11 教室・共通ゼミ室の使用

授業外に教室を使用したい場合は、理工学統合事務所教学支援課備付けの「教室・ゼミ室使用願」を提出しなければならない。教室使用願の提出にあたっては、次の事項に留意すること。

(1) 使用資格

理工学術院公認サークルおよびそれに準ずる団体、部長・会長・顧問等が理工学術院専任教職員である団体に限る。

(2) 使用願責任者

使用願には、責任者（専任教職員）の印を必要とする。

(3) 使用願の提出

使用願は、使用日の3日前（ただし事務所開室中）までに行うこと。

(4) 使用許可期間

原則として下記の期間を除いて許可する。

日曜日、祝祭日、休業中の土曜日、入学式から授業開始までの期間および前後期授業開始後2週間、前後期定期試験期間、夏季工事期間、理工展期間、入学試験構内立入禁止期間とその準備期間、その他諸行事で授業が休講となる期間

(5) 使用許可時間

原則として、月～金曜日は18時から20時まで、土曜日は14時40分から20時までとする。ただし、休業期間中は9時から17時30分までとする。

(6) 使用許可教室

52号館・53号館・54号館の全教室・56号館101・102・103教室および51号館・60号館共通ゼミ室

(7) 使用許可期間

原則として最長1ヶ月とする。それ以上にわたる場合は、再度提出すること。

(8) 使用上の注意

- ① 授業・教育・研究、および大学・学部・大学院の諸業務に支障を来す場合には、使用を許可しない。
- ② まわりの教室で行われている授業には充分注意し、その妨げにならないようにすること。
- ③ 教室内の机・椅子・その他の什器は動かさないこと。
- ④ 使用許可時間を厳守すること。
- ⑤ 大学が教室を使用しなければならない緊急の必要が生じた場合には、教室の変更をする場合がある。

12 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生部会があつて、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生部会と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 揭 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. エリソンオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーカーラム
20. 総合健康相談センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことはいうまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、指導教員との話し合い、あるいは総合健康教育センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（「学生の手帖」参照）、本研究科の学生もこれに参加し、活躍している。

この他に IAESTE（アイエステ・日本国際学生技術研修協会）がある。これは学生の外国企業での実習およびその国際交換を斡旋し、世界各国の学生間の理解と親善を深めることを目的とする学生の会である。この会は1948年に設立され、1964年には日本も加入した。現在80カ国以上がこれに参加しており、世界の理工農学系大学約900がIAESTE Internationalの学生交換海外研修プログラムに参加している。また、後援企業は約4,000社に及び、30万人以上の学生を交換研修した実績をもっている。

13 安全管理

早稲田大学大久保キャンパスには、学生・教職員10,000人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴もあるが、主に研究活動に専念する学部4年生、大学院生の数は4,000名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「大久保キャンパス安全衛生委員会」を設置し、そのもとに様々な安全管理体制を整備するとともに、安全衛生一斉点検をはじめ構内の安全管理を統轄している。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・修論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、大久保構内安全衛生委員会では、卒論実験、修論実験を主な対象とした「安全のてびき」を発行しているので、活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術職員に問い合わせてほしい。（メールでの問合せ先：anzen@sci.waseda.ac.jp）「安全のてびき」は、各実験室、技術企画総務課で入手することができるほか、次のURLから確認することができる。

大久保キャンパス安全ガイド：http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/02_safety/

理工学系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（正門警備室：内線3000）に連絡すること。緊急の場合（動かさないほうがよい・動かせない場合も含む）には、直接119番に通報した場合は、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人を動かせる場合には、総合健康教育センター（大久保分室 51号館1階：内線2640・2641）で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話（内線3000 外線03-5286-3022）に連絡すること。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話（正門警備室：内線3000）に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話（赤いボックス）が設置されているので、それを使って内線3000に電話することができる。

(3) 地 震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。その後は、大久保キャンパスには多数の化学薬品等があり、危険なので、中庭などの安全な場所に避難すること。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしてあるので、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル（学生用）」を参考にすると良い。

14 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および専攻独自のプログラムについては理工学統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の「STUDY ABROAD留学の手引き」や案内 (<http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>) をまず参照すること。また、在学生以外も参加できる短期プログラムはエクステンションセンター (<http://www.waseda.jp/extension/index.html>) でも主催している。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学を検討する学生は、4月と10月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、本学留学インフォメーションルーム（早稲田キャンパス22号館3階）の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも1年以上前からの準備が必要であるため、年間を通じた留学応募手続き案内などの具体的日程や情報案内等について、隨時 Waseda-net ポータルのお知らせや留学センターHPで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いや費用が異なり、また派遣先大学の事情により毎年異なる場合がある。奨学金は、日本学生支援機構の短期留学推進制度奨学金、早稲田大学学生交流奨学金、交換留学奨学金等があり、奨学金の募集要項等は派遣先大学が決定した後に配布される。

大学院生が早稲田大学の交換留学制度を利用して留学をしようとする場合、学部生とは異なった準備やプロセスが必要となる場合があり、注意が必要である。特に欧米の大学で、大学院生の研究内容がより専門的であることから、派遣先の事情により受入がスムーズに認められないことがある。留学先機関の変更を求められたり、受入自体が不可となることもある。その場合、代わりの受け入れ先を提供されることも

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 職員リソースオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーラーム
20. 総合健康センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

あれば、そうでない場合もある。交換留学では、受入に関わる決定は基本的には先方に委ねられているので、こうしたリスクが生じやすいことも認識しておく必要がある。

プログラムの概要：「長期留学」と「短期留学」

(1) 長期留学

① 早稲田大学交換留学プログラム（学部生、研究科生対象）

海外の協定校から留学生を受け入れ、同時に早大生を派遣する制度。ある程度自由に科目を履修できる。一部の大学をのぞいて学費は、早稲田大学の所属学部・研究科の学費等のみである。但し、現地で施設費等の支払いが必要となる場合もある。現地受け入れ人数は1-3名が通常で、多種多様な国の大学が協定校となっている。英語によるプログラム参加者には、TOEFL®-CBT 173点（iBT 61点）以上が学内選考の出願最低条件となり、非英語によるプログラムでは、現地の言語で授業についていける語学能力が求められる。

② 箇所間協定交換留学プログラム

一部の専攻では、いくつかの海外協定校と独自に協定を締結している。これらの交換留学プログラムについては、独自の選考日程および方法によって選抜が行われるため、各専攻の指示に従うこと。

③ ISA (Individualized Studies Abroad) プログラム（学部生対象、一部大学院生可）

交換プログラムと同様、現地大学の通常カリキュラムの中で、現地のコーディネーターと相談しながら、ある程度自由に科目を履修できるプログラム。語学力が低い場合、語学の勉強を義務づけるところもある。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。早大学費等は免除となる。実施機関の所在国および地域は、北アメリカ、イギリス・アイルランド、オセアニアが中心。

(2) 短期留学（数週間）

海外の渡航期間が数週間程度の語学学習および異文化体験を中心とした特別留学プログラム。本学主催箇所としては、留学センター、エクステンションセンター等が、夏季や春季にプログラムを提供している。

(3) その他の留学

自分で希望大学や語学研修機関から入学許可を得、かつ奨学金を受給せずに、いわゆる私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態を私費留学という。私費留学の場合は全ての手続を自分で行うかもしくは留学斡旋業者を利用して行うことになる。学籍上の扱いについては、ケースによって異なるため理工学統合事務所に確認すること。また、専攻独自に主催される留学プログラムが、その都度研究科・専攻掲示板にて募集される場合がある。

15 理工リエゾンオフィス

理工リエゾンオフィス（55号館S棟1階）は、理工系学部・大学院を取り巻く現況や活動等に関する情報を効率的かつ効果的に社会に発信するとともに、社会との円滑な相互交流の中心的な役割を担うため、学生・校友・教職員のコミュニケーションの活性化を目指して設立された機関である。

具体的には、「インターンシップセミナー」「テクノロジー&キャリアナビ」を主催し、「インターンシップ」「理工系アルバイト求人」「学会受賞や研究トピック」等々、積極的にWeb発信している。

特に「テクノロジー&キャリアナビ」では、企業による勉強・研究の滋養やキャリア形成に資する話を聴講でき、アドバイスを受けられる貴重な機会である。積極的に参加することを推奨する。

詳しくは<http://www.all-waseda.com/>を参照すること。

16 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、大久保キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、中庭、廊下・階段・通路・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙は厳禁とする。

17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が大久保構内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。

これまでも、本学の学生と思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。厳守すること。自分だけはという意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

18 理工学図書館・学生読書室

大久保キャンパスには理工学図書館と理工学生読書室がある。両者を総称する「早稲田大学理工学図書館」は早稲田大学における理工系学術情報の中心として、教育研究を支える重要な機関と位置付けられている。

理工学図書館は教職員、大学院生や学部の高学年学生を主たる利用対象者として設置された研究図書館である。蔵書構成は理工系分野の内外の学術雑誌（約7,600タイトル）を主体とし、約30万冊を所蔵している。

理工学生読書室は理工学術院学生を主な利用対象に設置された学習図書館である。理工系分野の一般図書の他、授業のカリキュラムに即した教科書や参考書が配架されている（所蔵図書数約10万冊）。

この他、大久保キャンパス以外にも中央図書館をはじめ戸山図書館、所沢図書館等があり利用することができる（他図書館の利用についてはそれぞれの利用規則に従うこと）。各図書館の情報は学術情報ネットワークシステム（WINE）で結ばれており、インターネットで検索が可能である（<http://wine.wul.waseda.ac.jp/>）。全国の大学の中でも比較的充実した図書、電子ジャーナルを有しており、是非有効に活用してもらいたい。

利用上の注意については、利用案内およびホームページ（<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/index-j.html>）を参照すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 記明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 工学リソースオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーカーラム
20. 総合健康読書センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(1) 理工学図書館 51号館地階 座席数 206席

開館時間 月～金：9時30分～21時（授業休止期間は20時まで）

土：9時30分～19時

閉館日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要のある場合は閉館する。

① 閲覧室〔新着雑誌閲覧室〕（座席数 102 席）

内外の新着雑誌の最新一年分を配架している。外国雑誌は誌名のABC順、国内雑誌は誌名の五十音順に配架してある。

② 参考図書コーナー

辞書、事典、便覧、ハンドブック、地図等の参考図書が配架されている。

③ 新聞コーナー

朝日・毎日・読売・日経・日刊工業新聞等1ヶ月分を閲覧できる。

④ レファレンス・サービス

研究・調査を進めていく上で、図書館を活用して必要な文献・情報を入手できるよう、質問・相談に応じている。必要な文献が図書館にない場合は、相互協力によって国内外の機関より文献の複写（実費負担）などを取り寄せることができる。

⑤ オンライン・データベースや電子ジャーナルの提供（理工学図書館外国雑誌/電子ジャーナル/データベース：<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/gaikokusi/HP-journalindex.htm>）

理工系のオンライン・データベース（JDreamⅡ, ISI Web of Science, MathSciNet等）や電子ジャーナル（ScienceDirect, Wiley InterScience, SpringerLINK, IEL等）を学内ネットワークで豊富に提供している。修士・博士論文の作成時等において関連する研究を調査するには大変便利なツールである。

⑥ 書 庫

書庫は上・下2層にわかれ、上層（B1）には主に合冊製本された和雑誌と和・洋の図書が分類順に配架されている。書庫の下層（B2及び増設書庫）には合冊製本された洋雑誌が配架されている。

(2) 学生読書室 52, 53号館地階 416席

書庫開室時間 月～金：9時30分～21時

土：9時30分～19時

閲覧室開室時間 月～金：9時～21時

土：9時～19時

ただし、授業休止期間中および試験期間中は時間を変更するので理工学図書館ホームページおよび掲示に注意すること。

閉室日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要ある場合は閉室する。

① 閲覧室（53号館地階）

キャンパス内で静かに学習するために活用できる場所である。そのため私語、雑談、携帯電話利用等、他人に迷惑をおよぼすような行為は厳重につつしみ、お互いにマナーを守りながら利用すること。

② 書庫・受付（52号館地階）

図書の貸出・返却手続き、利用したい図書の問い合わせ、リクエスト等に応じている。

19 コンピュータ・ルーム

大久保キャンパスには、約700台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用することができる（オープン利用）。

63号館 3階

名称	収容人数	用途
Aルーム	80名	標準コンピュータルーム（島型）
Bルーム	80名	
Cルーム	100名	
Dルーム	48名	標準コンピュータルーム（教室型）
Eルーム	48名	
Fルーム	48名	主に語学授業の利用を想定したコンピュータルーム（教室型）
Gルーム	48名	

その他

名称	収容人数	場所
製図/CAD室	208名	57号館 1階
情報閲覧室	10名	53号館 地下1階

各コンピュータルームの利用状況は、インフォメーションパネルおよび理工メディアセンターのホームページで確認できる。（⇒ <http://www.mse.waseda.ac.jp/>）

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として、ヘルプデスクが63号館3階南側に設けられている。

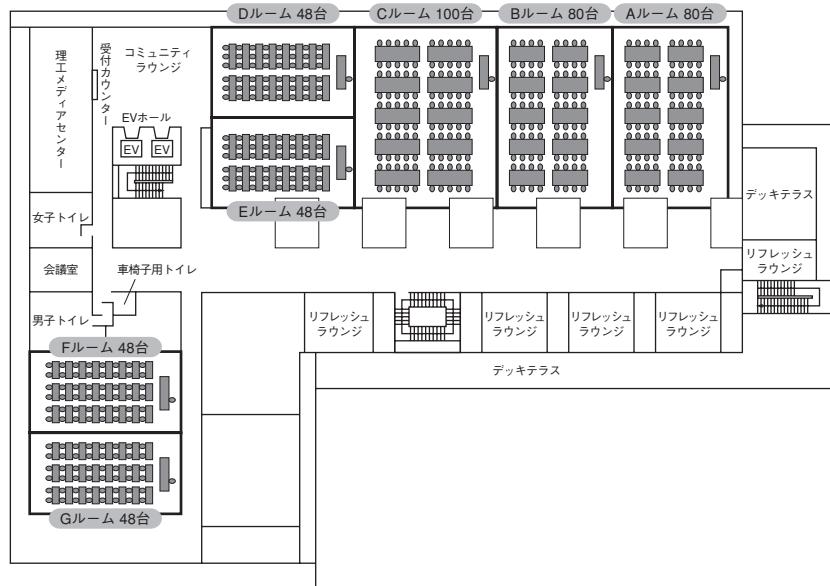
I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 工科図書オフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータルーム
20. 総合健康相談センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 証明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲 示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. 理工系オフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーカーネルーム
20. 総合健康教育センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

63号館3階 情報フロアマップ



○Windows環境を利用する

全てのコンピュータルームでWindowsが利用できる。Word, Excel, PowerPointの他, 理工系ソフトウェア, ソフトウェア開発環境などが用意されている。Windowsの利用には, 入学時に登録手続きを行うWaseda-netのIDとパスワードが必要。

○UNIX環境を利用する

全てのコンピュータルームからUNIX環境への接続ができる。主にプログラミング言語やアルゴリズム, 数値解析などの授業で利用されている。UNIX環境の利用には, Waseda-netポータルの「理工系学生ページ」より利用申請が必要。

○語学学習環境を利用する

Fルーム及びGルームでは, ヘッドセットが常設されており, 語学学習を支援するシステム（コールシステム）が利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

20 総合健康教育センター大久保分室

総合健康教育センター

総合健康教育センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように, 健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。

なお, 詳細については, ホームページ (<http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/>) を参照すること。

総合健康教育センター：25-2号館（早稲田キャンパス）

事務所（2階）Tel 03-3202-0580（直通）

診療室（3階）Tel 03-5286-3984（直通）

保健管理室（5階）Tel 03-5286-9800（直通）

学生相談室（6階）Tel 03-3203-4449（直通）

I 特徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付録

大久保分室

総合健康教育センター大久保分室（51号館1F）の前室は常時開室しているので、簡単な傷の手当等必要な場合は何時でも利用できるようになっている。また、健康やからだに関する相談も隨時受付けている。

（1）保健管理室

① 開室時間 月～金 9：00～17：00 Tel. 03-5286-3021

（医師による診察受付時間 月～金 13：30～15：40）

② 業務内容

- ・応急救急処置、傷病者の休養、定期健康診断、特殊健康診断の実施及び事後処理
- ・各種健康診断書の発行、健康相談、保健指導、その他の相談

（2）学生相談室（51号館1F西側19A室）

開室時間 週3回 13：00～17：00 Tel 03-5286-3082（直通）

心理相談、一般相談に心理専門相談員が応じている。

（開室時間以外は早稲田キャンパス学生相談室で受付）

学校伝染病「学校において予防すべき伝染病」について

下記の伝染病にかかった時は、他の者への感染防止のため学校保健法第12条により出席が停止となる。

出席停止の期間は、伝染病の種類に応じて決められている。出席停止期間中の授業および試験については、以下のような手続きを行うこと。

- （1）診断してもらった医師に診断書を書いてもらう。
- （2）所属研究科の事務所に電話にて報告する。
- （3）治癒後、事務所に診断書を提出する。
- （4）科目（試験）ごとの担当教員に診断書および欠席届けを提出して、指示をうける。

（学校において予防すべき伝染病の種類）

第1種の伝染病：治癒するまで出席停止（感染症予防法の1・2類感染症、結核を除く）

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウィルスであるもの）、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア

第2種の伝染病：飛沫感染する伝染病で、学校において流行を広げる可能性が高いもの

インフルエンザ（解熱した後2日を経過するまで）、百日咳（特有の咳が消失するまで）、麻疹（解熱し

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. 学生相談
5. 就職
6. 学生証
7. 記明書交付
8. 各種願提出
9. 奨学金
10. 掲示
11. 教室の使用
12. 課外活動
13. 安全管理
14. 海外留学
15. エリソンオフィス
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コピーラム
20. 総合健康講習センター
21. 交通機関の影響
22. 天候悪化の影響

た後3日を経過するまで), 流行性耳下腺炎(耳下腺の腫脹が消失するまで), 風疹(発疹が消失するまで), 水痘(すべての発疹が痂皮化するまで), 咽頭結膜熱(主要症状が消退した後2日を経過するまで), 結核(伝染のおそれがないと認めるまで)

第3種の伝染病:学校教育活動を通じ,学校において流行を広げる可能性があるもの

コレラ,細菌性赤痢,腸管出血性大腸菌感染症,腸チフス,パラチフス,流行性角結膜炎,急性出血性結膜炎,その他の伝染病

*資料 学校保健法施行規則

21 交通機関のストライキと授業

- (1) JR等交通機関のストが実施された場合(ゼネスト),首都圏におけるJRのストが
- ① 午前0時までに中止された場合,平常通り授業を行う。
 - ② 午前8時までに中止された場合,授業は3時限目(午後1時)から行う。
 - ③ 午前8時までに中止の決定がない場合は,授業は終日休講とする。
上記は,JRの遵法闘争および私鉄のストには適用しない。
- (2) 首都圏JRの部分(拠点)ストが実施された場合,平常通り授業を行う。
- (3) 首都圏JRの全面時限ストが実施された場合
- ① 午前8時までストが実施された場合,授業は3時限目(午後1時)から行う。
 - ② 正午までストが実施された場合,6時限目(午後6時)から授業を行う。
 - ③ 正午を越えてストが実施された場合,授業を終日休講とする。
- (4) 私鉄,都市交通のみがストを実施した場合,平常通り授業を行う。
- (5) 人間科学部・スポーツ科学部に設置された授業科目を受講する者については,上記(1)・(2)・(3)は適用されるが,(4)については
- ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストが実施された場合
 - ② ①の西武鉄道両線のストが実施されない場合でも,西武バスのストが実施された場合次のとおりとする。
A 午前8時までストが実施された場合,授業は3時限目(午後1時)から行う。
B 午前8時を越えてストが実施された場合,授業は終日休講とする。

22 天候悪化(台風・大雪等)による休講等の取扱いについて

台風,大雨,洪水,暴風,暴風雪,大雪等の天候悪化に伴いキャンパスが危険であると大学が判断した場合,授業休講・試験延期の措置をとることがある。

その場合は原則として,各時限の授業・試験開始60分前までに決定し,本学ホームページ(<http://www.waseda.jp/top/index-j.html>)にて広報・周知する。ただし,気象状況が悪化し,危険であると判断した場合は,60分前を過ぎても休講・試験の延期を決定することがある。

また,台風や大雪等,気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は,前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。

その場合は,前日の午後7時までに決定の判断を行い,本学ホームページに前日の午後9時までに掲載

して広報・周知する。

なお、授業および試験が実施される場合でも、学生はキャンパスまでの交通経路内に気象庁による気象警報が発表され、気象状況等に鑑みて通学することが危険又は困難であると自身で判断し、欠席した場合には、所属学部（研究科）による承認済みの欠席届をもって、該当科目の担当教員へ申し出ること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学生の手帳

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. 学生相談

5. 就職

6. 学生証

7. 証明書交付

8. 各種願提出

9. 奨学金

10. 掲 示

11. 教室の使用

12. 課外活動

13. 安全管理

14. 海外留学

15. インターリン
オフィス

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コピーラム

20. 総合健康
講習センター

21. 交通機関
の影響

22. 天候悪化
の影響

V

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

付 錄

1 早稲田大学大学院学則（抜粋）	1. 学則（抜粋）
2 早稲田大学学位規則（抜粋）	2. 学位規則（抜粋）
3 大学院外国人特別研修生に関する規程	3. 留学生・外国人特別研修生に関する規程
4 大学院科目等履修生に関する規程	4. 科目等履修生に関する規定
5 大学院研究生に関する規程	5. 研究生に関する規定
6 創造理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的	6. 理念・目的・教育目標
7 早分かりURL・電話番号	7. URL・電話番号
8 キャンパスマップ	8. キャンパスマップ
9 時間割制作成用紙	9. 時間割制作成用紙

1 早稲田大学大学院学則（抜粋）

第1章 総 則

(設置の目的)

第1条 本大学院は、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

(博士課程)

第2条 本大学院に博士課程をおく。

2 博士課程の標準修業年限は、5年とする。

3 博士課程は、これを前期2年、後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を、修士課程として取り扱うものとする。

4 前項の前期2年の課程は、「修士課程」といい、後期3年の課程は、「博士後期課程」という。

5 修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとすることができる。

(課程の趣旨)

第3条 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

(研究科の構成)

第4条 本大学院に次の研究科をおく、各研究科にそれぞれの専攻をおく。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	博 士 課 程	
	修 士 課 程	博士後期課程
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻
創造理工学研究科	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 研究科等に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(収容定員)

第5条 各研究科の収容定員は、次のとおりとする。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	専 攻	修士課程		博士後期課程		合 計 収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	90	180	25	75	255
	情報理工学専攻	130	260	30	90	350
	機械科学専攻	115	230	25	75	305
	計	335	670	80	240	910
創造理工学研究科	建築学専攻	120	240	20	60	300
	総合機械工学専攻	60	120	12	36	156
	経営システム工学専攻	80	160	15	45	205
	建設工学専攻	70	140	12	36	176
	地球・環境資源理工学専攻	95	190	15	45	235
	計	425	850	74	222	1,072
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	100	200	27	81	281
	化学・生命化学専攻	50	100	10	30	130
	応用化学専攻	95	190	28	84	274
	生命医科学専攻	60	120	15	45	165
	電気・情報生命専攻	125	250	20	60	310
	生命理工学専攻	70	140	15	45	185
	ナノ理工学専攻	65	130	15	45	175
	計	565	1,130	130	390	1,520

第2章 教育方法等

(教育方法)

第6条 本大学院の教育は、授業科目および学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

(履修方法等)

第7条 各研究科における授業科目の内容・単位数および研究指導の内容ならびにこれらの履修方法は各研究科において別に定める。

2 学生の研究指導を担当する教員を指導教員という。

3 本大学院の講義、演習、実習などの授業科目の単位数の計算については、早稲田大学学則第12条および第13条の規定を準用する。

(他研究科または学部の授業科目の履修)

第8条 当該学術院教授会または研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会等」という。）において、教育研究上有益と認めるときは、他の研究科の授業科目または学部の授業科目を履修させ、これを第13条、第13条の2または第13条の3に規定する単位に充当することができる。

(授業科目の委託)

第9条 当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）とあらかじめ協議の上、その大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修させた単位は10単位を超えない範囲で、これを第13条に規定する単位に充当することができる。

(研究指導の委託)

第10条 当該研究科運営委員会等において、教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院または研究所（外国の大学の大学院または研究所を含む。）とあらかじめ協議の上、本大学院の学生にその大学院等において研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(単位の認定)

第11条 授業科目を履修した者に対しては、試験その他の方法によって、その合格者に所定の単位を与える。

(試験および成績評価)

第12条 授業科目に関する試験は、当該研究科運営委員会等の定める方法によって、毎学年末、またはその研究科運営委員会等が適当と認める時期に行う。

2 授業科目の成績は、A+, A, B, CおよびFの五級に分かれ、A+, A, BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、研究指導等の成績については、PおよびQの二級に分かれ、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。

第3章 課程の修了および学位の授与

(修士課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了の要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程の修了要件)

第14条 博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 第2条第6項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者および第13条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、第29条第2号、第3号および第4号の規定により、博士後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院博士課程に3年以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を

- 1. 学則(抜粋)
- 2. 学位規則(抜粋)
- 3. 異人種属性に関する規定
- 4. 科目等履修生に関する規定
- 5. 研究生に関する規定
- 6. 理念・目的・教育目標
- 7. URL・電話番号
- 8. キャンパスマップ
- 9. 時割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 博士課程修了に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程に3年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り、当該研究科運営委員会等の許可を得て、博士論文を提出し、試験を受けることができる。

(博士学位の授与)

第15条 本大学院の博士課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

(修士学位の授与)

第16条 本大学院の修士課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

(課程によらない者の博士学位の授与)

第17条 博士学位は、第15条の規定にかかわらず、博士論文を提出して、その審査および試験に合格し、かつ、専攻学術に関し博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に対しても授与することができる。

(学位規則)

第18条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第6章 入学・休学・退学・転学・専攻の変更および懲戒

(入学の時期)

第27条 入学時期は、毎学期の始めとする。

(修士課程および専門職学位課程の入学資格)

第28条 本大学院の修士課程および専門職学位課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について、入学を許可する。

- 一 大学を卒業した者
- 二 学校教育法（昭和22年法律第26号）第68条の2 第3項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者
- 四 文部科学大臣の指定した者
- 五 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 六 各研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

(博士後期課程の入学資格)

第29条 本大学院の博士後期課程は、次の各号の一に該当し、かつ、別に定める検定に合格した者について入学を許可する。

- 一 修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を得た者
- 二 外国において修士もしくは修士（専門職）の学位またはこれに相当する学位を得た者
- 三 文部科学大臣の指定した者

四 各研究科において、個別の入学資格審査により、修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
(入学検定の手続)

第30条 本大学院に入学を志願する者は、大学が定める期日までに、大学に別表1に定める入学検定料を納付し、必要書類を提出しなければならない。

(入学手続)

第31条 入学または転入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に入学金ならびに最初の学期に係る授業料、演習料、実験演習料および施設費等を納め、所定の書類を提出しなければならない。

(保証人)

第32条 保証人は、父兄または独立の生計を営む者で、確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならない。

- 2 保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。
- 3 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任を負わなければならない。
- 4 保証人が死亡し、またはその他の理由でその責務を果たし得ない場合には、新たに保証人を選定して届け出なければならない。

(在学年数の制限)

第33条 本大学院における在学年数は、修士課程および専門職学位課程にあっては4年、博士後期課程にあっては6年を超えることはできない。

- 2 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の在学年数にあっては当該標準修業年限の2倍を超えることはできないものとする。

(休学)

第34条 病気その他の理由で引き続き2か月以上出席することができない者は、休学願書にその理由を付し、保証人連署で所属する研究科の研究科長に願い出なければならない。

- 2 休学は当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。この場合、休学の期間は通算し修士課程および専門職学位課程においては2年、博士後期課程においては3年を超えることはできない。
- 3 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の通算年数にあっては当該標準修業年限を超えることはできない。
- 4 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。
- 5 休学期間は、在学年数に算入しない。

(専攻および研究科の変更等)

第35条 専攻および研究科の変更または転入学に関する願い出があった場合には、当該研究科運営委員会等の議を経てこれを許可することができる。

(任意退学)

第36条 病気その他の事故によって退学しようとする者は、理由を付し、保証人連署で願い出なければならない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人籍修業性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(再入学)

第37条 正当な理由で退学した者が、再入学を志望したときは、選考の上これを許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部または一部を再び履修させることがある。

(懲戒)

第38条 学生が、本大学の規約に違反し、または学生の本分に反する行為があったときは懲戒処分に付することがある。

2 懲戒は、戒告、停学、退学の3種とする。

(处分退学)

第39条 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付す。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り、成績の見込みがないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7章 入学検定料・入学金・授業料・演習料・実験演習料および施設費等

(授業料等の納入期日)

第41条の2 学生は、第31条の場合を除き、次の各号に掲げる学期に係る授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

- 一 前期
- 二 後期

2 前項の規定にかかわらず、修業年限を超えて在学する者の授業料等の額および納入期日は、細則で定める。

(授業料等の額)

第42条 入学金および授業料等の額は、「学費の納入と抹籍」とおりとする。

(納入学費の取扱)

第43条 既に納入した授業料およびその他の学費は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(中途退学者の学費)

第44条 学年の中途中で退学した者でも、その期の学費を納入しなければならない。

(抹籍)

第45条 学費の納入を怠った者は、抹籍することがある。

第8章 外国学生

(外国学生の入学選考)

第46条 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者、またはこれに準ずる者は、第28条および第29条の規定にかかわらず、特別の選考を経て入学を許可することができる。

2 前項の規定による選考方法は、研究科長会の議を経て、各研究科運営委員会等が定める。

(外国学生の入学出願書類)

第47条 前条の規定により入学を志願する者は、必要な書類のほか、日本に在住して、学業に従事するこ

とが適法であることを証明するに足る、外国政府その他の官公署の証明書を提出しなければならない。
(外国学生の特別科目)

第48条 第46条および第47条の規定により入学を許可された者については、学修の必要に応じて、一般に配置された科目の一部に代え、またはこれに加えて特別の科目を履修させることができる。

2 前項の規定による特別の科目は、当該研究科運営委員会等が定める。

(外国で修学した日本人の取扱)

第49条 日本人であって、第28条第3号および第29条第2号に該当する者は、本章の規定によって取扱うことができる。

(外国人特別研修生)

第50条 第46条から第48条までの外国学生の規定にかかわらず、外国人であって本大学院において特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、支障がない限り、外国人特別研修生として入学させることができる。

2 外国人特別研修生の入学手続・学費等については、別に規程をもって定める。

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第51条 第27条から第29条までの規定によらないで、本大学院において授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、科目等履修生として入学させることができる。

(科目等履修生の種類)

第52条 官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく者を委託履修生という。

2 前項に定める履修生以外の者を一般履修生という。

(科目等履修生の選考)

第53条 科目等履修生として入学を志願する者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(科目等履修生の履修証明書)

第54条 科目等履修生が履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を授与し、本人の請求によって証明書を交付する。

(科目等履修生の学費、入学手続等)

第55条 科目等履修生は、別表に従い、入学金、聴講料および研究指導料を納めなければならない。

2 科目等履修生の入学手続等は、別に規程をもって定める。

第55条 別表 (基幹・創造・先進 理工学研究科)

入学金		70,000円
授業科目 聴講料	1単位につき	43,100円
	修士(各期)	215,500円
	博士(各期)	166,750円

注 1. 本大学卒業生および本大学院修了者の入学金は免除する。

2. 聴講料および研究指導料の合計額は、当該年度における第1年度の授業料と施設費の合計額を上限とする。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

(正規学生の規定準用)

第56条 科目等履修生については、第3章ならびに第33条および第34条を除き、正規の学生に関する規定を準用する。

第10章 研究生

(研究生)

第57条 本大学院博士後期課程に6年間在学し、博士論文を提出しないで退学した者のうち、引き続き大学院において博士論文作成のため研究指導を受けようとする者があるときは、研究生として入学させることができる。

(研究生の選考)

第58条 研究生として研究指導を受けようとする者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(研究生の入学手続、学費および在学期間等)

第59条 研究生の入学手続、学費および在学期間等については別に規程をもって定める。

(正規学生の規定準用)

第60条 研究生については、本章の規定および別に定める規程によるほか、正規の学生に関する規定を準用する。

第11章 交流学生

(交流学生の受託)

第61条 他大学の大学院の学生で、協定に基づき本大学院の授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者を、交流学生として受け入れることができる。

(交流学生の受入手続、学費等)

第62条 交流学生の受入手続および学費等については、当該大学との協定による。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 異人間属性に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

2 早稲田大学学位規則（抜粋）

(目的)

第1条 この規則は、早稲田大学学則（昭和24年4月1日示達。以下「大学学則」という。）および早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、早稲田大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 本大学において授与する学位は、学士、博士、修士および専門職学位とする。

3 博士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研究科	専攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	博士（工学）または博士（理学）
	情報理工学専攻	博士（工学）
	機械科学専攻	
創造理工学研究科	建築学専攻	博士（工学）または博士（建築学）
	総合機械工学専攻	博士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	博士（工学）または博士（理学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	化学・生命化学専攻	博士（理学）
	応用化学専攻	博士（工学）
	生命医科学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	

4 大学は、前項に定める学位のほか博士（学術）の学位を授与することができる。

5 修士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研究科	専攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	修士（工学）または修士（理学）
	情報理工学専攻	修士（工学）
	機械科学専攻	
創造理工学研究科	建築学専攻	修士（工学）または修士（建築学）
	総合機械工学専攻	修士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	修士（工学）または修士（理学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	化学・生命化学専攻	修士（理学）
	応用化学専攻	修士（工学）
	生命医科学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	

I 特徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付録

1. 学則（抜粋）
2. 学位規則（抜粋）
3. 異人間修業に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

(博士学位授与の要件)

第4条 博士の学位は、大学院学則第14条により博士課程を修了した者に授与する。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位は本大学院の博士課程を経ない者であっても、大学院学則第17条により授与することができる。

(修士学位授与の要件)

第6条 修士の学位は、大学院学則第13条により修士課程を修了した者に授与する。

(課程による者の学位論文の受理)

第7条 本大学院の課程による者の学位論文は、修士課程および専門職学位課程については2部を、博士後期課程については3部を作成し、それぞれに論文概要書を添えて研究科長に提出するものとする。ただし、研究科長は、審査に必要な部数の追加を求めることができる。

2 研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて研究科運営委員会の審査に付さなければならない。

(課程によらない者の学位の申請)

第8条 第4条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文3部、論文書概要書および履歴書を添え、その申請する学位の専攻分野を指定して、総長に提出しなければならない。

(課程によらない者の学位論文の受理)

第9条 前条の規定による博士論文の提出があったときは、総長は、その論文を審査すべき研究科運営委員会の議を経て、受理するか否かを決定し、受理することに決定した学位論文について審査を付託するものとする。

2 研究科長は、受理の可否および審査のため必要と認めるときは、前条に規定する論文の部数のほか、必要な部数を追加して提出させることができる。

(学位論文)

第10条 博士、修士および専門職学位の学位論文は1篇に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 前項により、一旦受理した学位論文等は返還しない。

3 審査のため必要があるときには、学位論文の副本、訳文、模型または標本等の資料を提出させることがある。

(審査料)

第11条 第9条の規定により、学位論文を受理したときは、学位の申請者にその旨を通知し、別に定める審査料を納付させなければならない。ただし、一旦納付した審査料は返還しない。

(審査員)

第12条 研究科運営委員会は、第7条第2項の規定により、学位論文が審査に付されたとき、または第8条および第9条の規定により、学位の審査を付託されたときは、当該研究科の教員のうちから、3人以上の審査員を選任し、学位論文の審査および試験または学識の確認を委託しなければならない。

2 研究科運営委員会は必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず本大学の教員または教員であった者を、学位論文の審査および試験または学識の確認の審査員に委嘱することができる。

3 研究科運営委員会は必要と認めたときは、第1項の規定にかかわらず他の大学院または研究所等の教員等に学位論文の審査員を委嘱することができる。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 研究科運営委員会に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

4 研究科運営委員会は、第1項の審査員のうち1人を主任審査員として指名しなければならない。ただし、研究科委員会が必要と認めたときは、第2項の審査員のうち、本大学の教員である者を主任審査員として指名することができる。

(審査期間)

第13条 修士学位および専門職学位の授与にかかる論文の審査および試験は、論文提出後3か月以内に、また博士学位の授与にかかる論文の審査、試験および学識の確認は、論文の提出または学位の授与の申請を受理した後、1年内に終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、研究科運営委員会の議を経てその期間を延長することができる。

(面接試験)

第14条 第8条の規定により学位の授与を申請した者については、博士論文の審査のほか、面接試験を行う。この試験の方法は研究科運営委員会において定める。

2 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が特別の理由があると認めたときは、面接試験を行わないことができる。

(試験)

第15条 大学院学則第14条による試験の方法は、研究科運営委員会において定める。

(学識確認の方法)

第16条 大学院学則第17条による学識の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目および外国語についての試問の方法によって行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず研究科運営委員会が特別の理由があると認めた場合は、学識の確認のための試問の一部または全部を免除することができる。

(審査結果の報告)

第17条 博士の学位に関する審査が終了したときは、審査員は速やかに審査の結果および評価に関する意見を記載した審査報告書を研究科運営委員会に提出しなければならない。

(学位論文の判定)

第18条 前条の審査の報告に基づき、研究科運営委員会は無記名投票により、合格、不合格を決定する。ただし、特別の場合には、他の方法によることができるものとし、その方法については、研究科長会の承認を得なければならない。

2 前項の判定を行う研究科運営委員会には、当該研究科運営委員の3分の2以上の出席を要し、合格の判定については、出席した委員の3分の2以上の賛成がなければならない。この場合の定足数の算定に当たっては、外国出張中の者、休職中の者、病気その他の事由により、引き続き2か月以上欠勤中の者、および所属長の許可を得て出張中の者は、当該研究科運営委員の数に算入しない。

3 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が必要と認めたときは、当該研究科運営委員以外の第12条に規定する審査員を学位論文判定の審議に加えることができるものとする。

4 研究科運営委員会が第1項の合否を決定したときは、研究科長はこれを総長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第19条 総長は、前条第3項の規定による報告に基づいて学位を授与し、学位記を交付する。

2 学位を授与できない者には、その旨を通知する。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 外国人特別研修生に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

(論文審査要旨の公表)

第20条 博士の学位を授与したときは、その論文の審査要旨は、大学が適当と認める方法によってこれを公表する。

(学位論文の公表)

第21条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士論文を、書籍または学術雑誌等により、公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に、印刷公表されているときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科運営委員会の承認を受けて、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、大学はその論文の全文を求めて応じて閲覧に供するものとする。
- 3 第1項の規定により、公表する場合は、当該論文に「早稲田大学審査学位論文（博士）」と、また前項の規定により公表する場合は、当該論文の要旨に、「早稲田大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第22条 本大学の授与する学位には、早稲田大学と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条 本大学において博士、修士または専門職学位を授与された者につき、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、当該研究科運営委員会および研究科長会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 2 研究科運営委員会において前項の議決を行う場合は、第18条第2項の規定を準用する。

3 大学院外国人特別研修生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号。以下「学則」という。）第50条（外国人特別研修生）の規定に基づき、外国人特別研修生（以下「特別研修生」という。）の取り扱いについて定める。

- 2 特別研修生については、この規程によるほか、正規学生に関する学則の規定を準用する。

(受入資格)

第2条 特別研修生として入学することのできる者は、外国の大学において、修士課程修了者またはこれと同等以上の学力を有し、科目等履修生として受け入れることが適當でないと認められる者に限る。

(入学時期)

第3条 特別研修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、事情により学期の中途においても、入学を許可することができる。

(出願手続)

第4条 特別研修生として入学を志願する者は、必要書類に選考料を添えて、当該研究科委員長に願い出なければならない。

- 2 選考料は、科目等履修生として入学を志願する者の額と同額とする。

(科目の履修)

第5条 指導教員が必要と認めた場合は、特別研修生に本大学院または学部に配置されている授業科目の一部を履修させることができる。

(在学期間)

第6条 特別研修生の在学期間は、当該学年限りとし、引き続き特別研修生として入学を志願する場合には、改めて願い出なければならない。

(証明書)

第7条 特別研修生が研究報告書を提出したときは、当該研究科は適当と認めた者に対して証明書を発行することができる。

(入学手続)

第8条 特別研修生として入学を許可された者は、所定の学費等を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

(学費等)

第9条 特別研修生の入学金および研究指導料は次のとおりとする。

入学金 70,000円

研究指導料 前・後期 166,750円

(博士後期課程)

2 特別研修生に対し、演習料または実験演習料、学会費、学友会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

3 在学期間が6か月以内の場合の研究指導料および演習料または実験演習料等は半額とし、6か月を超える場合は全額とする。

4 既に納入した入学金、研究指導料および演習料または実験演習料等は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(選考料および入学金の免除)

第10条 特別研修生であった者が、引き続き特別研修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 番人研修等に関する規定
4. 科目等研修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

4 大学院科目等履修生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第55条（科目等履修生の学費、入学手続等）の規定に基づき、科目等履修生の取り扱いについて定める。

(入学時期)

第2条 科目等履修生の入学時期は、学期の始めとする。ただし、委託履修生は、事情により学期の中途においても、入学を許可することができる。

(履修単位)

第3条 科目等履修生が聴講できる授業科目の制限単位は、次のとおりとする。

1. 学則(抜粋)
 2. 学位規則(抜粋)
 3. 留学生等の規定
 4. 科目等履修生に関する規定
 5. 研究生に関する規定
 6. 理念・目的・教育目標
 7. URL・電話番号
 8. キャンパスマップ
 9. 時間割作成用紙
- 一 授業科目のみの場合 20単位
 - 二 授業科目および研究指導をあわせて受講する場合 10単位

(出願手続)

第4条 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書に、履歴書、最近撮影の写真および選考料2万5千円を添えて、当該研究科長に願い出なければならない。ただし、委託履修生は、このほかに、官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託書を添付しなければならない。

2 前項前段の規定にかかわらず、独立研究科の選考料は3万円とする。

(在籍期間)

第5条 科目等履修生の在籍期間は、入学した年度の3月15日までとする。ただし、授業科目により特別な在籍期間が定められている場合は、当該期間とする。

(入学手続)

第6条 科目等履修生として入学を許可された者は、入学金および次の区分による所定の学費を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

- 一 授業科目のみの場合 聴講料
- 二 研究指導のみの場合 研究指導料
- 三 授業科目および研究指導の場合 聴講料および研究指導料

(選考料および入学金の免除)

第7条 本大学大学院正規学生であった者が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

2 前項の規定により科目等履修生となった者が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、選考料および入学金を免除する。

3 第1項の規定によらない科目等履修生が、引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には、2年間に限り選考料および入学金を免除する。

(入学金、聴講料、研究指導料)

第8条 科目等履修生の入学金・聴講料および研究指導料は、別に定める。

(演習料、実験演習料、学友会費、学会費等)

第9条 科目等履修生に対し、演習料または実験演習料、学友会費、学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

5 大学院研究生に関する規程

(根拠および目的)

第1条 この規程は、早稲田大学大学院学則（1976年教務達第1号）第59条（研究生の入学手続、学費および在学期間等）の規定に基づき、研究生の取り扱いについて定める。

(出願手続)

第2条 研究生として入学を志願する者は、所定の願書により、当該研究科長に願い出なければならない。
(入学手続、学費)

第3条 研究生として入学を許可された者は、次の区分による所定の学費を納入して、学生証の交付を受けなければならない。

- 一 研究指導料 博士後期課程の新3年生の授業料の半額
- 二 演習料・実験演習料 博士後期課程の新3年生の演習料または実験演習料の全額。ただし、その年度の前期において学位を取得した場合は半額

2 前項の学費の分納期は、次のとおりとする。

研究指導料 第1期 全額

演習料・実験演習料 第1期 半額 第2期 半額

(在学期間)

第4条 研究生の在学期間は1年とする。ただし、研究指導を継続して受けようとするときは、原則として2回に限り延長することができる。

2 在学期間の延長を希望する者は、毎年度の終りまでに、理由を付して、当該研究科長に願い出なければならない。

3 在学期間の延長の許可は、当該研究科運営委員会の議を経て、研究科委員長が行う。

(学友会費、学会費等)

第5条 研究生に対し、学友会費、学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 研究科要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則 (抜粋)
3. 異人種属性 に関する規定
4. 科目等履修生 に関する規定
5. 研究生 に関する規定
6. 理念・目的・ 教育目標
7. URL・ 電話番号
8. キャンパス マップ
9. 時間割 作成用紙

6 創造理工学研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的

(1) 理念・目的・教育目標

創造理工学研究科は、「高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与する」ことを目的として設置された。早稲田大学の教旨に「学問の活用を本旨と為す」とある。これは、基礎のための基礎学問ではなく、基礎学問を応用まで発展させ社会に貢献することの大切さを示しており、本研究科設置の目的は本学の教旨、すなわち建学の精神に沿ったものとなっている。

急速な進展を遂げる現代社会の中で、「教育・研究・社会貢献」という大学に課せられた使命を全うしていくためには、私学として果たすべき役割を問い合わせながら、世界最先端の研究に裏打ちされた大学院教育をより一層強化していく必要がある。そのため、「学部・大学院の統合教育」を基軸に据え、高度に展開する多彩な社会的要件に応えるために柔軟な組織・体制へ転換するとともに、学内理工系機関との連携を積極的にとりながら、広く社会に対して開かれた理工系大学院を目指す。

本研究科に設置された博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを教育の目標としている。また、修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目標とする。

(2) 人材育成等の目的

上述のような理念・目的および教育目標の下、本研究科は高度な専門的知識を有し、さらに「創造性、国際性に富んだ人材を育成する」ことを目指し、以下のような取り組みを行う。

大学院教育は、各専攻分野における専門性を深めることを第一の目標とするが、近年、学問・科学技術は特化されますます細分化されており、独創的な研究と展開をリードできる人材を育成していくためには、異分野の知識の習得が極めて重要となっている。そこで、特化されたものを意識的に再度融合・連携させることが必要となってきた。このような現状を踏まえ、本研究科では、「相乗的融合」をキーワードとする研究・教育を進める。国際性豊かな人材を育てるためには、適切な語学教育とともに、英語論文の作成や国際会議への参加等を通じた実践的な教育も重要である。これを支援・促進する施策として、「国際会議論文発表補助費」を設ける。

理工系は、常に変化の激しい時代の要請に柔軟に対応しながら、「科学技術創造立国・日本」を支えリードする技術者・研究者の育成を推進していかなければならない。本研究科の掲げた理念・目的・教育目標および人材育成等の目的は、このような理工系大学に課せられた使命を適切に果たして行くことを目指して設定されたものである。

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則(抜粋)
3. 留入学修業性に関する規定
4. 科目等履修生に関する規定
5. 研究生に関する規定
6. 理念・目的・教育目標
7. URL・電話番号
8. キャンパスマップ
9. 時間割作成用紙

7 早分かり URL・電話番号

要項やホームページを見ても理解できない場合のために、下記を紹介。

内 容	担当・掲載場所等	電話番号	URL、メールアドレス等
科目登録、試験、成績、証明書、サークル、学費、授与金、留学、休学、退学等修学に関わることで質問したい。	教学支援課	03-5286-3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
入試、転科、教員の研究内容、カリキュラム体系、ホームページ、広報等に関わることで質問したい。	業務開発・入試課	03-5286-3003	gyoumu@sci.waseda.ac.jp
構内掲示、自転車駐輪、会議室管理・予約、TA、各種研究助成制度等で質問したい。	総務課	03-5286-3000	
Waseda-netの使用方法、パソコン全般について質問したい。	理工メディア	03-5286-3049	helpdesk@mse.waseda.ac.jp
英語の単位修得基準、履修方法等について知りたい。	英語教育センターホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/ENGLISH/
勉強の進め方や卒業に必要な科目等、個人的にクラス担任と相談したい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
特定の教員と連絡が取りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
休講情報を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www2.sci.waseda.ac.jp/LOCAL/kyuko/ (学内のみ参照可能)
端末などを廃棄したい。物が壊れている。	技術企画総務課	03-5286-3500	http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/
怪我をした。頭痛がする。	総合健康教育センター 大久保分室	03-5286-3021	http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/
留学生で、学生生活が不安だ I am an international student. Student life is uneasy.	国際交流支援室 International exchange support room	03-5286-3145	gakumu@sci.waseda.ac.jp
連絡バスの時刻表が知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/koho/bus.html
図書館の開室時間等について知りたい。	理工学図書館	03-5286-3084	riko-tosh@list.waseda.jp
生協の営業時間、生協での書籍販売、カフェテリアについて質問したい。	早稲田大学生協	03-3200-4206	info@wcoop.ne.jp
上記には当てはまらないが、質問がある。	理工学統合事務所代表	03-5286-3000	info@sci.waseda.ac.jp

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 異人間修業性
に関する規定

4. 科目等履修生
に関する規定

5. 研究生
に関する規定

6. 理念・目的・
教育目標

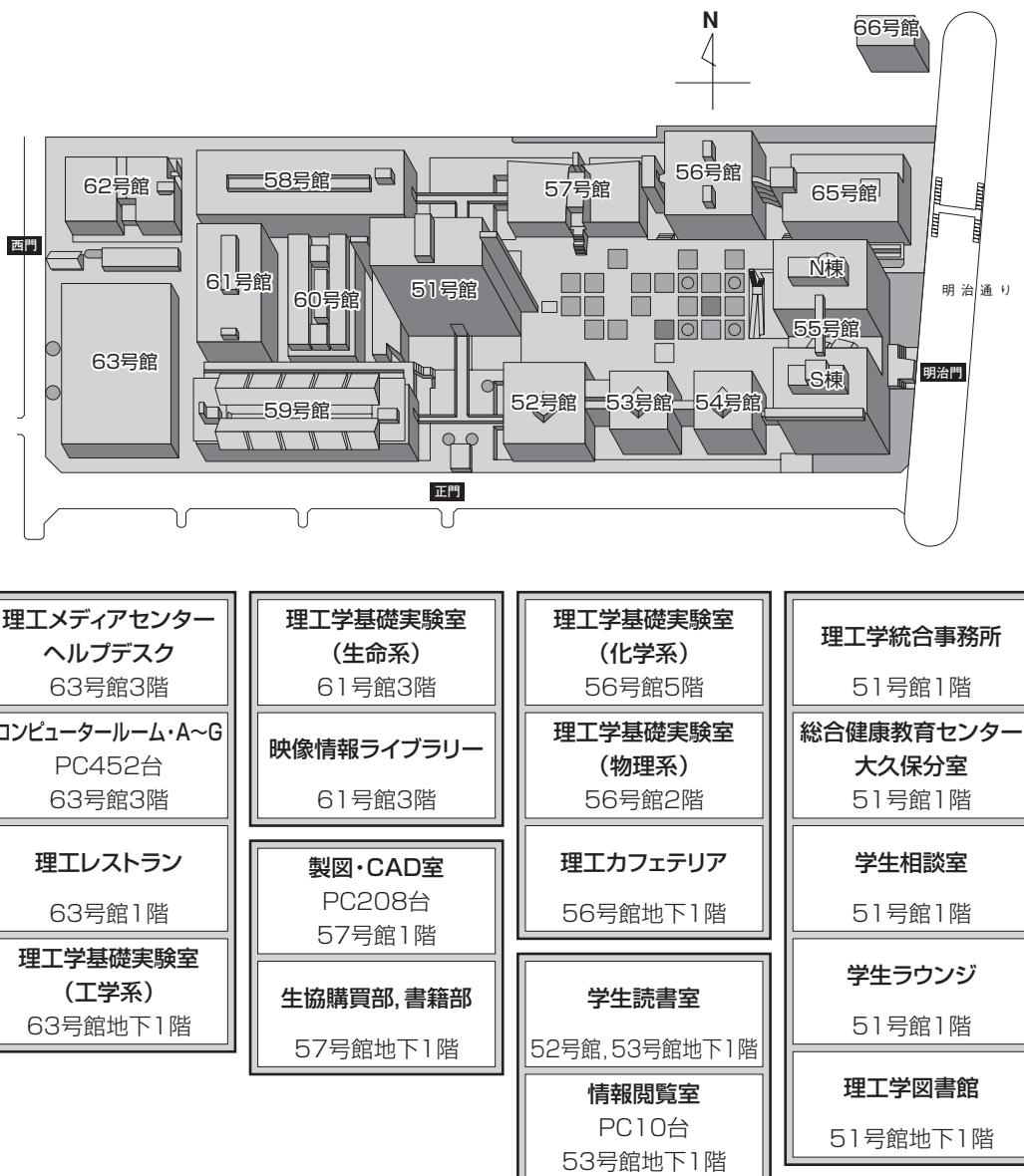
7. URL・
電話番号

8. キャンパス
マップ

9. 時割
作成用紙

8 キャンパスマップ

- I 特徴
 - II 沿革と概要
 - III 研究科要項
 - IV 学生生活
 - V 付録
1. 学則(抜粋)
 2. 学位規則(抜粋)
 3. 残人弱者に対する規定
 4. 科目等履修生に関する規定
 5. 研究生に関する規定
 6. 理念・目的・教育目標
 7. URL・電話番号
 8. キャンパスマップ
 9. 時間割作成用紙



学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
数学学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階03	物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階03
応用数理学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08	応用物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階03
情報理工学科 情報理工学専攻 63号館1階01	経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階00	化学・生命化学科 化学・生命化学専攻 55号館N棟2階03
機械科学・航空学科 機械科学専攻 60号館2階08	社会環境工学科 建設工学専攻 51号館17階07B	応用化学科 応用化学専攻 55号館N棟2階03
電子光システム学科 63号館1階01	環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階	生命医学科 生命医科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内 〒163 新宿区若松町2番2号
表現工学科 51号館04階00	知財・産業社会政策領域 51号館04階00	電気・情報生命工学 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階03
	国際文化領域 51号館04階00	生命理工学専攻 55号館N棟2階03
		ナノ理工学専攻 63号館1階01
英語教育センター 51号館04階00		

I 特 徵

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)

2. 学位規則
(抜粋)

3. 異人種属性
に関する規定

4. 科目等履修生
に関する規定

5. 研究生
に関する規定

6. 理念・目的・
教育目標

7. URL・
電話番号

8. キャンパス
マップ

9. 時割
作成用紙

9 時間割作成用紙

- I 特 徴
 - II 沿革と概要
 - III 研究科要項
 - IV 学生生活
 - V 付 錄
1. 学則(抜粋)
2. 学位規則
(抜粋)
3. 外国人留学生
に関する規定
4. 科目等履修生
に関する規定
5. 研究生
に関する規定
6. 理念・目的・
教育目標
7. URL・
電話番号
8. キャンパス
マップ
9. 時間割
作成用紙

【1年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

	月曜		火曜		水曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

I 特 徴

II 沿革と概要

III 研究科要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)
2. 学位規則
(抜粋)
3. 異人種属性
に関する規定
4. 科目等履修生
に関する規定
5. 研究生
に関する規定
6. 理念・目的・
教育目標
7. URL・
電話番号
8. キャンパス
マップ
9. 時間割
作成用紙

【1年生】

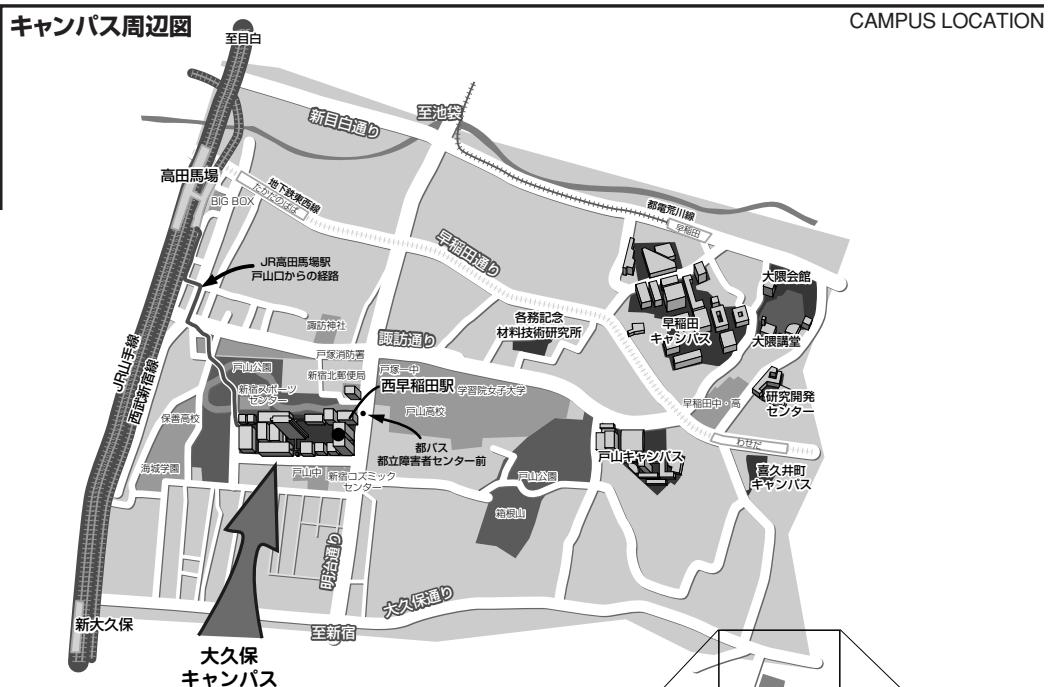
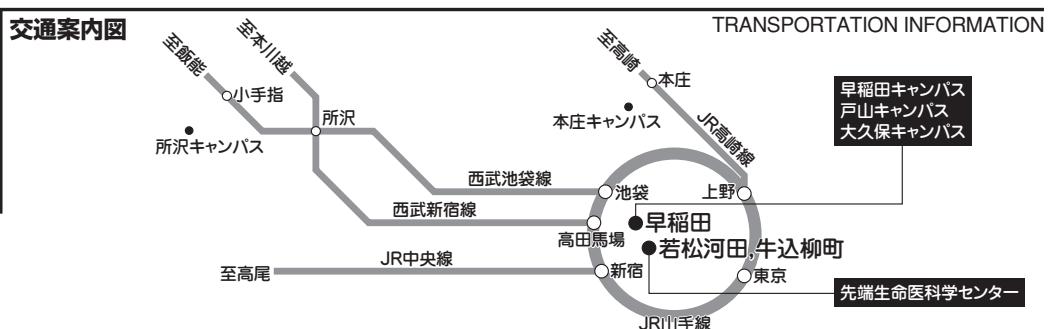
	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

【2年生】

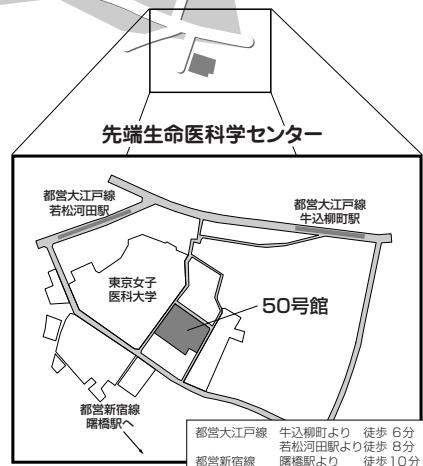
	木曜		金曜		土曜	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						

OKUBO CAMPUS

早稲田大学大久保キャンパス



JR (山手線)	高田馬場駅 戸山口下車	徒歩10分
JR (山手線)	新大久保駅 下車	徒歩10分
東京メトロ東西線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
東京メトロ副都心線	西早稲田駅 下車	徒歩 1分
(平成20年度中開通予定)		
西武新宿線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
都バス	都立障害者センター前 下車 徒歩1分 高田馬場駅(高71)九段下行き 池袋駅東口(池86)渋谷駅行き 新宿駅西口(早77)早稲田行	





早稻田大学大学院 創造理工学研究科

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

info@sci.waseda.ac.jp